# 複製された初版本で日本近代文学を愉しもう（Ⅱ）

藤　井　　哲*

## 複刻作品リスト[1]

### 《凡例》

○ このリストは，日本近代文学館が図書月販（後に ほるぷ / ほるぷ出版）と提携し，あるいは双方が独自に進めた企画において複刻（複製）されてきた初版本を記述する．

○ 人名では，『日本近代文学大事典』（講談社，1977～78）での呼称または通りの良いものを正字体で五十音順に配列し，適宜ルビを（現代仮名遣いの読みで）振った．

○ 書名では漢字・仮名の違いも含めて初版本での表記を尊重しつつ，角書（つのがき）や副題は基本的には省略して，一般に通用している読みの五十音順で配列し，適宜ルビを振った．

○ 版元や刊行日の情報は，原則として原本の奥付より得た．書誌類に頼った場合もある．なお西暦を主とし，和暦もストレスを募らせない程度において併用した．

○ 形態上の留意点として，和本仕立てなら〈和〉，函や帙や畳紙（たとう）入りであれば〈函〉，袋やジャケット（カバー）等の蔽いがあれば〈ジ〉，帯や正誤表のような挿み物があれば〈帯〉や〈挿〉と付記したが，見落としも多少あろう．[2] 複製時の保護ケースなど後年の付物は〈付記〉の対象にしていない．

○ 単行本でなくても，付録であれば □付 などと表示し，リストから排除しなかった．

---

* 福岡大学名誉教授

[1] 本稿は，『人文論叢』第 49 巻 4 号に掲載された「複製された初版本で日本近代文学を愉しもう(I)」（pp. 1147－1210）の続篇で，複刻作品リスト の前半部である．

[2] 八木福次郎（1991）の推定では，差込み式函が用いられるようになったのは明治 41 年（1908）以降であり，帯は大正期以降（1912 ～）であるらしい（pp. 9 －11）．函・帯の有無を推し量る際に多少の目安となろう．

○ 竹久夢二の著作では類似した書名が多々あるので，長田幹雄が『夢二本』（日本古書通信社，1974）で振った作品番号 1 ～ 57 を添えるようにした.

○ 夏目漱石の初版本にあっては，日本リーダーズ・ダイジェスト社の RD とユーキャンの 漱選 はそれぞれ底本を異にする複製のようであるが，蒐書に際しては識別を要する書目であるとの注意を喚起するためにリストに加えた.

○ 蒐書の参考にと，気負わずに一知半解式のコメントを作品項目に添えた．但し，門外漢の狭い見識で並べた〝ちゃらっぽこ〟なので，専門家を噴飯させるに相違ない.

○ 各コメントの冒頭に別冊解説類での執筆者名を挙げた．それで，参照した先が明示されていない「引用」の典拠は，大体において発行の早い解説からという含みになる.

○ 本文および「引用」では句読点を用いず，ピリオドとコンマで統一した．省略部分を〝…〟で示し，繰り返し記号の〝くの字点〟を〝々〟や〝ゝ〟で代用した．また，漢・洋数字の使い分けはしていない．なお，全体に渉って敬称を略させて頂いた.

○ 立項されている人名と書名をコメントでは太字で表示した.

**會津 八一**（1881－1956）：　　号秋艸道人（しゅうそうどうじん），渾齋.

□ 『南京（なんきょう）新唱』（春陽堂，大正 13 年 12 月 25 日：1924）石楠　　〈函〉

＊解説者：宮川寅雄．＊南京（奈良の古称）の風物を和歌で詠い続けてきた早稲田中學の一介の英語教師が明治 41 年（1908）以降の作品 93 首を集め，**坪内逍遙**からの序文を得て第一歌集を物した．詠み上げられて理解されるべき歌には漢字が不要との発想で仮名文字のみを間合いを取りながら配した第一稿は版元を驚かせたそうである．＊自装で，表紙の鹿の絵は漢瓦当の拓本に依った．800 部が印刷されたものの売れそうになかったので，奥付の初版発売日 15 日は好評売れ切れを偽装するためで，今回複製された 25 日の第三版が事実上の初版であった．＊ところが，「南京新唱」を含む『自註鹿鳴集』を 1953 年 10 月 10 日に新潮社から出したのを最後に彼は和歌を詠まなくなった．＊中央公論美術出版が 1964 年 12 月 1 日に宮川の別冊解題（24 頁）付で 1,000 部を復刻（2,000 円）した際には活字を組み直したので，原本との相違が本文において僅かに生じた.

**青木 茂**（1897－1982）：

□ 『智と力兄弟の話』（新潮社，大正 9 年 12 月 23 日：1920）児② 児選〈函〉

＊解説者：藤田圭雄．＊作者 17 ～ 23 歳時の創作童話と詩を収録した本書を早くから山田耕筰が注目しており，**三木露風**は「その下におそろしい哲学が潜んでいゐる」と感じていた．青木にとっても自信作であったらしく，ノーベル文学賞に値すると豪語したこともあった．1951 年には**大佛次郎**も「日本よりも外国人に読ませたほうが，もっと歓迎されるのではないか」と，その独創性に刮目した由である．＊装幀・口絵：**初山滋**.

**秋田 雨雀**（1883－1962）：　本名德三.

□ 『太陽と花園』（精華書院，大正 10 年 7 月 18 日：1921）児① 児選

＊解説者：塚原亮一．＊プロレタリア文学運動に邁進する雨雀が政治的社会的問題を仮託した諷刺物 10 篇を収録した第二童話集で，彼の児童文学における絶頂期を画することになった．＊1941 年にフタバ書院から改版された際には，発禁処分が通達された.

**芥川 龍之介**（1892－1927）：

筆名柳川（←白秋の里）隆之介．号我鬼，澄江堂主人，壽陵餘子他.

□ 『梅・馬・鶯』（新潮社，大正 15 年 12 月 25 日：1926）芥川　〈函・帯〉

＊解説者：木俣修．＊「短篇以外のものをざつと一冊に纏めたかつた」（小序）そうで，第三にして生前最後の随筆集にあたる．既刊書からも集めた百余篇に，ウの頭韻を効かせた口調の良い書名を付けたようである．＊**佐藤春夫**による装幀で，帯が函を巻いている.

□ 『傀儡師』（新潮社，大正 8 年 1 月 15 日：1919）特選/芥川/珠②　〈函〉

＊解説者：吉田精一 / 三好行雄 / 吉田．＊順風満帆で油の乗りきった大正 6 ～ 8 年に発表してきた江戸物，王朝物，南蛮物，児童物の代表格作品など 11 篇を集めた第三短篇集．三好は本書を「新領域をひらいた歴史小説の最高の到達」と見ている．いっぽう吉田は，各篇の原典調査の最新成果を報告するとともに，「彼の鬼工神趣のあとに，感服」している．但し「傀儡師」と題された作品は

無いので，種本の原作者や登場人物のモデルのイメージを自在に操る人形遣いに自身を見立てての命名であろうとされている．＊装幀は芥川自身による．

□ 『影燈籠』（春陽堂，大正９年１月 28 日：1920）芥川 〈函〉

＊解説者：高田瑞穂．＊マンネリ化を意識し始めていた芥川が，文壇が「自然主義の桎梏を脱した」と見極めた大正８年（1919）に発表した８篇を収録する第四短篇集．「著者 29 歳の年で「回り燈籠」のような境地にあった」（内容見本）らしく，仏小説家 Anatole France（1844－1929）やアイルランドの詩人 W. B. Yeats（1865－1939）からの翻訳も収録するが，前集である『**傀儡師**』に比べて影の薄い本ではあるらしい．＊装幀は野口功造．

□ 『黄雀風（こうじゃくふう）』（新潮社，大正 13 年７月 18 日：1924）芥川 〈函〉

＊解説者：磯田光一．＊関東大震災の翌年に刊行された第七短篇集．収録された 16 篇のうちキリシタン物，科学的ユートピア小説，歴史小説の他，半数は自伝的な海軍機關學校の英語教官堀川〝保吉もの〟で，作風の変化を告げる作品が並ぶ．芥川は３年後に自殺することになるが，昭和文学の幕開けを告げるに相応しい作品集とされる．＊装幀：小穴隆一．

□ 『湖南の扇』（文藝春秋社出版部，昭和２年６月 20 日：1927）芥川 〈函〉

＊解説者：小島信夫．＊昭和２年発表の 17 篇と「塵労」（1920）を収めて，生前最後の第八短篇集となったが，「いわゆる筋のない小説が中心」（内容見本）になっている．＊装幀：小穴隆一．

□ 『地獄變』（野田書房，昭和 11 年４月 25 日：1936）芥川 〈函・函〉

＊解説者：野田宇太郎．＊芥川の小説としては比較的長篇である「地獄變」は彼の王朝物の代表作品で『**傀儡師**』にも収録されていた．没後久しくして刊行されたこの一篇本が，**堀辰雄**による意匠「造本の妙，美しさ」故に芥川に編入された．８頁毎に〝芥川龍之介〟と漉き込まれた縁の断ち揃えられていない和紙が用いられ，表紙と同じ布による畳紙に包まれ，更に夫婦函に収められている．題簽は小穴隆一．＊限定 170 部で，１～ 30 番本は芥川家に納められ，31 ～ 40 番を版元が受け取り，41 ～ 170 番が販売されたが，この複製本から番号が抹消されている．78 番を底本にして 108 番で補正したということであろう．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

□ 『支那游記』（改造社，大正 14 年 11 月 3 日：1925）芥川　〈函〉

＊解説者：福田宏年．＊『大阪毎日新聞』派遣の海外視察員として大正 10 年 3 月から 7 月まで中国各地を巡った際の成果で，「風景や名所旧蹟よりも，むしろ人間と生活に目を向け，それを終始醒めた目で，批判的かつユーモラスに描写」した紀行文を 5 篇集めている．＊装幀：小穴隆一．

□ 『邪宗門』（春陽堂，大正 11 年 11 月 13 日：1922）芥川　〈函〉

＊解説者：長野甞一（じょういち）．＊**「地獄變」**の続編を意図して大正 7 年に『大阪毎日新聞』に書き始められて 32 回で中絶していた未定稿が，「一には書肆の嘱により，二には作者の貧による」（後書）事情からそのまま出版された．解説の長野は，「長編の構想力が芥川には欠けていたという通説」を裏付ける作品と評している．

□ 『侏儒の言葉』（文藝春秋社出版部，昭和 2 年 12 月 6 日：1927）

昭和 精選/芥川 珠②　〈函・挿〉

＊解説者：吉田精一 / 小田切進．＊昭和 2 年 7 月 24 日の自殺を承けて，大正 12 年（1923）の創刊から 14 年 10 月まで『文藝春秋』の巻頭を飾ってきた懐疑的・厭世的な箴言や警句が，「侏儒の言葉（遺稿）」その他の稿とともに，その年の内に刊行された．＊装幀：小穴隆一．〝校正者〟による告知が一枚挿み込まれている．＊芥川の『解説』には，「精選版のこれまでのものより，函・表紙・本文などに若干の手直しを加えることができた」とあり，見比べてみると確かに表紙の色合いも鮮やかになっている．

□ 『春服（しゅんぷく）』（春陽堂，大正 12 年 5 月 18 日：1923）芥川　〈函〉

＊解説者：進藤純孝．＊「トロッコ」も含まれる新作 15 篇の短篇集で，進藤は「脱皮，脱出，それが春服二十代を終える芥川の，課題というよりも，悲願であり呻吟であった」と解説する．第六短篇集に相当しよう．＊装幀：小穴隆一．

□ 『將軍』（新潮社，大正 11 年 3 月 15 日：1922）芥川

＊解説者：浅井清．＊廉価版といった趣きの〝代表的名作選集〟—37 として刊行された．収録 9 篇のうち新登場は「藪の中」（1922）と，陸軍大将乃木希典の影を捕らえた「將軍」（1922）の 2 篇だけであったが，結局「將軍」は生前中の作品集では本書にしか収録されなかった．

□ 「水虎晩帰之圖」（自筆画，大正 11 年頃：1922?） 秀選付

＊解説者：紅野敏郎．＊「水虎」は河童のことで，Ｂ４判大の紙面左右に一匹ずつ描かれている．河童を尻尾にぶら下げている馬は久米正雄が描いた．オリジナルの裏には佐佐木茂索（龍門のひとりで，後に文藝春秋新社社長）による裏書きが貼られているらしいが，複製には見られない．芥川は大正９年頃から河童を描くようになり，愛着を募らせていったらしく，命日も〝河童忌〟として知られている．

□ 『西方の人』（岩波書店，昭和４年 12 月 20 日：1929） 芥川 〈函〉

＊解説者：饗庭孝男．＊自殺した昭和２年の，３～７月に執筆された「歯車」や「或阿呆の一生」など 11 篇を収める第九短篇集．〝西方の人〟とはキリストのこと．**佐藤春夫**がこの遺作集に跋文を寄せている．＊装幀は小穴隆一で，表紙には芥川が二度目の長崎旅行で手に入れた遺愛のマリア観音が描かれた．

□ 『大導寺信輔の半生』（岩波書店，昭和５年１月 15 日：1930） 芥川 〈函〉

＊解説者：篠田一士．＊晩年の作品集３冊のうちの一点で，自殺に至るまでの３年間に執筆された，「河童」を含む長短 11 篇を収める第十短篇集．自伝的な作品「大導寺信輔の半生」は未発表であった．**菊池寛**が「跋」を寄せている．＊装幀を引き受けた小穴隆一は，自殺時の着衣から表紙の模様をデザインした．＊ 2001 年９月６日には〝岩波文芸初版本復刻シリーズ〟で 650 部が限定販売（7,000 円）されている．

□ 『煙草と悪魔』（新潮社，大正６年 11 月 10 日：1917） 芥川

＊解説者：饗庭孝男．＊〝新進作家叢書〟―８で，芥川にとっては第二短篇集にあたる．11 篇を収録するが第一と第三集に挟まれた並の出来とされている．自序には「書いてゐる時の心もち」が語られている．＊ちなみに『煙草と悪魔』（荻原星文館，1935）は，２作品が重複するだけの別編成の本．

□ 『澄江堂遺珠』（岩波書店，昭和８年３月 20 日：1933） 芥川 〈函〉

＊解説者：奥野健男．＊死後に詩が未定稿のまま行李から発見されて，それを**佐藤春夫**が編集した．芥川による唯一の詩集として七回忌に配られ，公刊もされた．＊装幀も佐藤で，縁が断ち揃えられていない和紙に手作業で印刷され，函には草稿を貼り合わせるという意匠．＊なお，表紙に用いられた墨流しの手

法を今回の複製で再現するために，「原本のすみ流しを担当したといわれる越前の名人に依頼」（内容見本）したそうである．

□ 『澄江堂句集 印譜附』2 冊（私家版，昭和 2 年：1927）芥川　〈和・函・挿〉

＊解説者：楠本憲吉．＊『**梅・馬・鶯**』ちゅうの「發句」に 3 句を加えた自選 77 句集．晩年になって篆刻に鑑賞眼を発揮させていた成果である「印譜」も同体裁で，1 葉だけの目録が別刷りされている．印刷された自筆短冊「わか庭は枯山吹の青枝のむら立つなへに時雨ふるなり 龍之介」も挿み込まれている．

＊〝唐仕立本〟であるが，四十九日忌に芥川家から配られたので奥付が無い．残部を文藝春秋社出版部が奥付を貼付して 1927 年 12 月 20 日に市販した．

□ 『點心』（金星堂，大正 11 年 5 月 20 日：1922）芥川

＊解説者：川副国基．＊〝隨筆感想叢書〟のうちであり，芥川にとっての第一随筆集．「創作の合間に一服やるような気楽さ」を窺わせる独特な文体で執筆された 32 篇を収める．多彩な内容から，「大正期知識人作家の象徴的な存在である芥川の，理想も憧憬も，また不安も懐疑も察知」されてくるそうである．

＊装幀は森田恒友で，本書には誤字，脱字，脱行が夥しく，表紙・背表紙・扉では本人の嫌った龍之助と誤植されている．

□ 『鼻』（春陽堂，大正 7 年 7 月 8 日：1918）芥川

＊解説者：瀬沼茂樹．＊〝新興文藝叢書〟の第 8 編．『**羅生門**』に収録されていた 14 篇から，「父」と「煙管」を除き，加筆して再録する．更に，他の刊本には未収録であった「西郷隆盛」（1918）を加えて全 13 篇にした文庫本．

□ 『百艸（そう）』（新潮社，大正 13 年 9 月 17 日：1924）芥川

＊解説者：久保田正文．＊この〝感想小品叢書〟—Ⅷは，『**點心**』に続く随筆感想集で，「内容や論理の軽重とは別に，読者をしぜんにひきこんで，読みとおさせるちからを，文章・文体そのものがそなえている」と評されている．

＊装幀：恩地孝四郎．

□ 『文藝的な，余りに文藝的な』（岩波書店，昭和 6 年 7 月 5 日：1931）

芥川　〈ジ〉

＊解説者：秋山駿．＊「『話』らしい話のない小説」を唱えて**谷崎潤一郎**に論破されたことから執筆した標題作と，自殺の動機を自ら解明した「或級友へ送

る手記」を中心に据え，16 篇の遺稿で囲んだ随筆集．＊装幀：小穴隆一．

□ 『三つの寶』（改造社，昭和 3 年 6 月 20 日：1928）児① 児選 〈函〉

＊解説者：成瀬正勝．＊標題作，「蜘蛛の糸」，「魔術」，「杜子春」など，大正 7 年（1918）～ 12 年に『**赤い鳥**』その他に発表されていた「エゴイズムを越えた世界への悲願」を主題にした童話 6 篇集で，**佐藤春夫**が「他界へのハガキ」を寄せている．＊小穴隆一が装幀を引き受けた以外にも何かと尽力して，昭和 2 年に他界した芥川の遺志に沿って「ひとつのテーブルの上にひろげて縦からも横からも子供たちが首をつっこんで読める」大型本として，「児童文学の宝ともよべる作品で，空前絶後といっていいほどの美しい本」に仕上げられたが，芥川 には，収録作品の重複から，編入されていない．＊〝わくわく！名作童話館〟（日本図書センター, 2006）での復刻は文字遣いや装幀が現代化されている．

□ 『夜來の花』（新潮社，大正 10 年 3 月 14 日：1921）芥川 〈函〉

＊解説者：福田清人．＊大正 9 ～ 10 年発表の，「杜子春」を含む中期での 15 篇を収めた第五短篇集．＊本書から後は友人として小穴隆一がしばしば装幀を担当するようになった．

□ 『羅生門』（阿蘭陀書房，大正 6 年 5 月 23 日：1917）

大正 新選 / 芥川 / 珠② / SONY / CatH 〈函〉

＊解説者：三好行雄 / 猪野謙二 / 三好 / 海老井英次 / 島田雅彦．＊数え 25 歳という最初期に執筆された 14 作を収めた第一短篇集で，「わが国の短編様式に最初の，高度な形式的完成をもたらした」とされる．三好は，**漱石**が絶賛した「鼻」よりも，あるいは「芋粥」よりも，「手巾（はんけち）」に芥川文学に潜在するモチーフを指摘する．また「羅生門」は，『**鼻**』（春陽堂，1918）へ再録されるにあたって改筆されていた．＊自装で，管虎雄が題簽を寄せた．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

**有島 武郎**（1878－1923）： 号行正（ゆきまさ），泉谷（せんこく），由比ヶ浜兵六．**里見弴**の兄．

□ 『或女』2 冊（叢文閣，大正 8 年 3 月 23 日，6 月 16 日：1919）大正 精選

＊解説者：瀬沼茂樹．＊『白樺』に連載された「或女のグリンプス」（1911 ～ 13）が補筆改稿を経て前編とされ，後編は新たに書き下ろされた．モデルは**國**

**木田獨歩**の最初の妻佐々城信子であったらしい．『日本近代文学図録』（1964）は，「時代に先んじて生まれた主人公早月葉子の反抗と自滅の生涯をリアリスティックに追求した近代文学屈指の名作」（p. 263）と評するが，『近代文学名作事典』（1967）によれば，「大正中期における異常な有島ブームの中でも，不思議に「或る女」評価は低かった」そうである．＊本書は叢文閣版『有島武郎著作集』の第八輯と第九輯として刊行され，弟の生馬が装幀をした．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

□ 『生れ出る悩み』（叢文閣，大正７年９月12日：1918）大正 新選/SONY
＊解説者：安川定男 / 加賀乙彦．＊中断されていた同年の新聞連載を完成させた作品で，版元を新潮社から叢文閣に替えた『有島武郎著作集』の第六輯に組み入れられた．すなわち，藝術家を志望しながら家族の生活を支えるという，理想と現実の相克に苦しむ主人公を有島が共感的に描いて，「有島文学の秘密を解く鍵といわれる」（内容見本）ほどの中篇小説．北海道の厳しい自然の描写は有島の独壇場で，そこに溶け込むようにして存在感を示すのが彼の描く人間像であると加賀は教える．＊装幀：有島生馬．「石にひしがれた雑草」を併載．

□ 『一房の葡萄』（叢文閣，大正11年６月17日：1922）児① 児選
＊解説者：瀬沼茂樹．＊子供の世界は独立していることを大人が理解すれば，子供は本然的に発育するはずであると考えた有島が，「きびしいヒューマニズムに貫かれた文学性高い」（内容見本）作風で子供の実感に迫ろうとした４編の童話．児童文学では唯一の単行本であった．＊装幀・挿画は有島生馬．表紙の葡萄は伊上凡骨（いがみ）による．

**有本 芳水**（1886－1976）：　本名歡之助．

□ 『旅人』（實業之日本社，大正６年１月７日：1917）児②
＊解説者：続橋（つづきはし）達雄．＊少年雑誌が揃って新体の少年詩を掲載するなかにあって，『日本少年』の編集者である有本も先行文学を下敷きにして「旅の哀愁と，感傷」を誌上で詠ってきた．そのうちの95篇を集めた本書は明治末から大正期にかけて頻繁に版を重ねた．

**安西 冬衛**（1898－1965）：　本名勝.

□ 『軍艦茉莉（マリ）』（厚生閣書店，昭和 4 年 4 月 18 日：1929）山茶　〈ジ〉

＊解説者：篠田一士．＊〝現代の藝術と批評叢書〟の第 2 編．「長短さまざま，技法もさまざま，出来栄えもさまざま」な前衛詩 86 篇を 5 部に分けて収める．＊序文は**北川冬彦**．ジャケットの冬衛讃と表紙の書名は，詩誌『詩と詩論』（厚生閣書店）での同人**西脇順三郎**による筆で，妻で英国人画家の西脇マジョリー（旧姓 Majorie Biddle）が表紙の顔の素描と装幀を担った．＊『解説』によると普及版（昭和 7 年 11 月刊行）もあり，その表紙が掲載されている．＊ゆまに書房も〝現代の芸術と批評叢書〟を全 26 巻（17 万円＋税？）で複製しており，そのなかの一点として本書も 1994 年 10 月 24 日に刊行されている．

**飯田 蛇笏**（だこつ）（1885－1962）：　本名武治．号山廬.

□ 『山廬集』（山梨：雲母社，昭和 7 年 12 月 21 日：1932）連翹　〈函・挿〉

＊解説者：石原八束．＊ 9 歳から詠んできた俳句 1,775 句すなわち蛇笏の句業における大半を集成した第一句集で，自らが主宰する雲母社から〝雲母叢書〟第參篇として上梓された．石原によると，それまでの 30 年間に作風が，句誌『國民俳壇』に投稿盛んであった時期～主観句時代～山梨の自然の諷詠句による蛇笏調の時期 へと変化していった．＊装幀・蛇笏の肖像：川端龍子（りゅうし）．1,000 部発行.

**石井 研堂**（1865－1943）：　本名民司.

□ 『日本漂流譚』第一篇（學齢館，明治 25 年 6 月 11 日：1892）児②　〈和〉

＊解説者：瀬田貞二．＊明治 41 年（1908）の『明治事物起原』（橘南堂）の業績で知られている研堂は，大正 12 年（1923）いらい明治文化研究会に参画することになる在野の歴史家であった．彼は以前から近世における海難記録の蒐集に熱心で，明治 26 年にも本書の第二篇を出しており，それぞれ 5 篇ずつの海難譚を収録していた．更に明治 33 年には 1,000 頁の『漂流奇談全集』（博文館）に総集しており，中濱萬次郎の漂流についても詳解している．＊本書のために富岡永洗と小林清親等が墨刷り木版画を提供した.

**石川 啄木**（1886－1912）：　本名一.

□ 『あこがれ』（小田島書房，明治 38 年 5 月 3 日：1905）

特選/石楠/珠⑦　〈ジ〉

＊解説者：久保田正文 / 岩城之徳（ゆきのり） / 久保田．＊岩城に依ると，明治 36 ～ 37 年作の 77 篇を収めたこの第一詩集は，明治 30 年代特有の浪漫主義的感覚を窺わせて，「**泣菫**や**有明**に迫る気概」において「明星派の生んだ代表的な作品」となり得たが，27 歳で早世した晩年に向けられた「社会主義文学の先駆的詩人」という今日的評価に照らすならば，本書に「啄木文学独自の意義と価値を見いだすことは困難である」らしい．むしろ，啄木を詩作に向かわせた米国の詩集 *Surf and Waves: The Sea as Sung by the Poets*（1883）からの影響という新視点で『あこがれ』の意義が検討される要を岩城は強調している．＊装幀は同郷の友石掛（いしがかり）友造で，序を**上田敏**が，跋を**与謝野鐵幹**が寄せている．初版＋再版で 1,000 部印刷．最高級の手漉き和紙が用いられたジャケットは，今日では殊の外に稀少であるらしい．＊日本図書センターが 2002 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

□ 『一握の砂』（東雲堂書店，明治 43 年 12 月 10 日：1910）

明後 新選/山茶/珠⑦　〈ジ〉

＊解説者：岩城之徳（ゆきのり） / 猪野謙二 / 岩城．＊実生活に取材した三行書きの短歌 551 首を集めて大正以降の歌壇に新風を吹き込むことになった第一歌集．『日本近代文学図録』（1964）は「新詩社風の浪漫性の尾をひきつつ，現実生活の貧しさ苦しさからくる自棄懐疑諦念を刻みつけている」（p. 256）と解説する．＊装幀は名取春僊（しゅんせん）．＊新選の第 5 刷（1972 年 4 月 10 日）以降ではジャケットが復元されている．＊ 1960 年 5 月 11 日には野田宇太郎が，初版では各頁 2 首掲載であったのを 3 首に詰めて新字体漢字で組み直した『函館版 一握の砂』を編纂・解説し，棒二森屋から道内限定で頒布（250 円）した．＊ 1969 年 12 月 24 日に，求龍堂が初版を複製して，政治公論社「無限」編集部が〝アントロギア・ポエティカ〟のシリーズで『**悲しき玩具**』とセットにして，仙北谷晃（せんぼくや）一執筆の別冊解説（53 頁）を添えて 1,000 部を販売（5,000 円）した．＊ 1980 年 3 月 18 日にも野田は，各頁 2 首配列に戻し，正字で活字を組み直し，判型を縮小して，解

説（16 頁）を綴じ込んだ〝明治村版〟を編纂しており，それは愛知県の明治村でのみ販売（1,000 円）された．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟(1985) は複製本ではない．

□ 『悲しき玩具』（東雲堂書店，明治 45 年 6 月 20 日：1912）

大正 精選/紫陽 珠⑦ 〈ジ〉

＊解説者：久保田正文 / 小田切進．＊ 194 首と 2 評論を収めるこの第二歌集は，啄木の死後に親友**土岐善麿**により出版された．貧と病により彼は，望郷的で感傷的傾向から生活派短歌に変調し，プロレタリア短歌へと傾斜していった．＊1936 年 11 月に書物展望社から『稿本 悲しき玩具』が出ていらい刊本との比較が可能になった．＊ 1969 年 12 月 24 日に求龍堂が複製し政治公論社「無限」編集部が〝アントロギア・ポエティカ〟で『**一握の砂**』と併せて，仙北谷(せんぼくや)晃一による別冊解説（53 頁）を添えて 1,000 部を販売（5,000 円）した．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟(1985) は複製本ではない．

**石田 波郷**（1913－69）： 本名哲大(てつお)．

□ 『石田波郷句集』（沙羅書店，昭和 10 年 11 月 25 日：1935）紫陽 〈函〉

＊解説者：井本農一．＊発表の場としていた句誌『馬酔木(あしび)』を上京後に手伝うようになり，その主宰者である**水原秋櫻子**の口利きにより〝馬酔木叢書〟第 11 編として 300 部が出版された．収録されたのは 213 句で，主に「瀬戸内海に近い農村の田園生活や自然が多く詠まれ…青春性に溢れ」た句と，「都会の知識人と毎日交って暮らす生活の中で生まれた句」からなり，数え 23 歳時の処女句集らしく「「わび」とか「さび」とかいう古臭い俳句的情趣から全く脱け出た，明るい都会的青春性」を主調とするが，「後年の大作家に成長する才筆をすでに十分に開示して」いたと評されている．＊波郷は平均 3 句ずつにして天地を揃えない頁構成を希望したらしい．＊函は蓋式と差込式が半々に造られたが，前者の存在を紫陽の編集部は確認できなかったそうである．

**泉 鏡花**（1873－1939）：　本名鏡太郎.

□ 『海戰の餘波』（博文舘，明治 27 年 11 月 26 日：1894）児② 〈和〉

＊解説者：村松定孝．＊鏡花が文壇に知られるようになる以前に発表していた一連の児童書のうち.「日清役に取材したメエルヘン」として「鏡花ごのみの浪漫世界の兆し」を窺わせる本格的な長篇童話であった．永峯秀湖の絵もほのかなユーモアを添える.

□ 『高野聖』（佐久良書房，明治 41 年 2 月 20 日：1908）明前 精選 〈ジ〉

＊解説者：村松定孝．＊10 歳で死別した美しい母への思慕を艶麗優美な〝鏡花調〟で綴った怪奇譚で，『日本近代文学図録』（1964）は「幻想味豊かな神秘的浪漫文学として珍重」（p. 238）に価すると紹介している．＊余談ながら，この母の名すゞと本名が同じであった神楽坂の藝者桃太郎との仲を硯友社領袖の**尾崎紅葉**に反対された経緯が，鏡花の『婦系圖』（春陽堂，1908）に設定を提供することになったらしい．＊口絵：鏑木清方．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない.

□ 『日本橋』（千章館，大正 3 年 9 月 18 日：1914）特選 〈函〉

＊解説者：成瀬正勝．＊自然主義リアリズム文学が衰退した大正以降にあって，本作に見られるような，「花柳界に取材して，江戸的な情趣のなかに女主人公の芸妓の悲恋を扱う鏡花文学」は，**谷崎**，**芥川**，**里見**たち耽美派的傾向の作家たちに支持された．＊装幀：小村雪岱（せったい）.

**伊藤 左千夫**（1864－1913）：　本名幸次郎．筆名幸男，号春園（はるその）.

□ 『野菊の墓』（俳書堂，明治 39 年 4 月 5 日：1906）

明後 新選 / SONY / CatH

＊解説者：福田清人 / 中村稔 / 津島佑子．＊師事してきた**子規**の没後，『馬酔木』を創刊して和歌を詠み，また写生文派の小説家として明治の封建的な道徳を背景にした「少年少女の思慕悲恋を描いた作」を発表して，**漱石**から見て技巧に足らぬところはあるにしても月並み臭くない出色の文学と好意的に評された．明治 28（1895）～ 29 年の**一葉**の『たけくらべ』と並んで，明治期小説の双璧を成すと目されている．＊装幀・口絵：中村不折．扉は原本に見られない由.

**伊東 靜雄**（1906－53）：

□ 『わがひとに與ふる哀歌』（杉田屋印刷所發行/コギト發行所発賣，昭和 10 年 10 月 5 日：1935）紫陽 〈函・ジ・帯〉

＊解説者：富士正晴．＊文体が急変した昭和 8 年を挟んで 5 ～ 10 年間の作品約 75 篇から 28 篇を自選し 300 部を自費出版した．解説者は，「伊東静雄の詩はすべて哀歌だと私は考へる．そして彼の生活そのものが哀歌であらう．」と捉えている．＊紫陽 は原本通りで，表紙をパラフィン紙が蔽い，その上に帯が巻かれている．＊冬至書房が 1968 年 2 月 10 日に〝近代文藝復刻叢刊〟として富士執筆の別冊解説（6 頁）付で 500 部を販売（1,000 円）したが，共蓋式の函とパラフィンの復原が不完全．＊日本図書センターが 2000 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**伊藤 整**（1905－69）：　本名整（ひとし）．日本近代文学館の第二代理事長．

□ 『雪明りの路』（椎の木社，大正 15 年 12 月 1 日：1926）特選 石楠

＊解説者：瀬沼茂樹．＊詩壇には属さず，故郷小樽の雪と緑の自然を背景にしながら 15 歳頃から書き留めてきた短詩を収めて 300 部を刊行．「序」は「私の長い間の苦難に對して，私は私だけの道を歩いて來たとばかりの誇は持つ資格があると信じたいのだ」と述べている．＊ 1970 年 11 月 15 日に一周忌の配り物として伊藤家により複製されたことがある．＊原本に文字の欠けが目立ったせいか，木馬社が活字を組み直して 1952 年 3 月 20 日に，6 月 15 日には 143 部限定で，再刊したことがあった．＊日本図書センターが 2006 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**井上 靖**（1907－91）：

□ 『獵銃』（1949 ～ 71；ほるぷ出版，昭和 47 年 12 月 1 日：1972）自選 〈函〉

＊解説者：本人（巻末）・小田切進・山本健吉・江戸英雄・東山魁夷．＊井上が巻末の「二十四の小石」で明かすには，彼が作家として認められるようになってから 23 年間で発表してきた長・中篇 40 余作と短篇 170 余作のなかから，個人的愛着が強い作品を集めていったら〝24 の短篇〟だけで本書の枚数枠が満杯

になってしまった．＊それ故であろうか重量が2kgもある〝小石〟袋に仕上がった．＊題字は本人によるもので，装幀と挿絵は加山又造による．

**井伏 鱒二**（1898－1993）：　本名滿壽二.

□『さざなみ軍記』（1930～38；ほるぷ出版，昭和47年12月1日：1972）

自選　〈函〉

＊解説者：本人(巻末)・小田切進・永井龍男・中島健三．＊井伏の「跋」によると，都落ちしながら大人びていく平家の公達を，道中日記の形式を借りつつ，「自分の文體の變遷」に沿って描き分けながら昭和5～13年に発表してきて，13年（1938）に単行本に集めていた．更に，昭和10～11年に『文藝春秋』に掲載した「集金旅行」と，6～7年掲載の「川」も併せて収録する．＊題字は本人の揮毫で，6葉ある挿絵は御正伸（みしょうしん）が描いた．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

□『夜ふけと梅の花』（新潮社，昭和5年4月3日：1930）昭和

＊解説者：浅見淵（ふかし）．＊「ゴオゴリ風な誇張によって，チェホフ的なペーソスのあるユウモア」を独自性とした，初期の秀作16篇を網羅的に収録した第一短篇集．弾圧でその頃に凋落の兆しを示し始めていたプロレタリア文学に代わって盛り上がろうとする文藝復興の機運に乗じて，井伏は人気作家になっていった．＊2000年3月22日に，ゆまに書房が〝新興芸術派叢書〟のうちとして複製（6,800円＋税）している．

**伊良子（いらこ） 清白（せいはく）**（1877－1946）：　本名暉造（てるぞう）．筆名すずしろのや.

□『孔雀船』（佐久良書房，明治39年5月5日：1906）山茶　〈ジ〉

＊解説者：三好行雄．＊保険審査医と保険勧誘とを兼業しながら主として雑誌『文庫』に発表してきた明治33年以来の詩作品約160篇から18篇を自選した第一詩集で，すでに詩人としての完成の域に到達していた．当時全盛の浪漫的詩歌からも影響を受けながら，自由詩に走ることはせず，「古典的な明晰・格調を重んじつつ，自然や事象のふかい意味を問うところに清白詩の独創」を見せていた．「古語を用ゐてこれほど冷やかで乾いてゐるのは，**鷗外**に匹敵するが，彼

には鷗外にない詩的直感，あるいは想像力がある」と，山本健吉[3] は 1968 年になって注目している．しかし当時には清白に続く詩人が輩出せず，岩波文庫が 1938 年 4 月 5 日にこの詩集を再刊してから読者を増やすようになった．＊世間離れしたところがあり，装幀者の長原止水にまで保険を売り込んで顰蹙を買ったと伝えられている．

**岩野 泡鳴**（1873－1920）：　　本名美衞（よしえ）．筆名白滴子．

□ 『耽溺』（易風社，明治 43 年 5 月 1 日：1910）明後　　〈挿〉

＊解説者：野口冨士男．＊自然主義作家泡鳴が「作品そのものが人間性の解放」になるという思いで綴った自伝的中篇小説．〝一元描写〟の手法で，『**發展**』以下の泡鳴五部作に取り掛かる前の先蹤的存在でもあった．＊正誤表付き．＊八木福次郎（2007）はジャケットを見たことがあったらしいが，未発見のためここでは複製されていない．

□ 『發展』（實業之世界社，明治 45 年 7 月 1 日：1912）特選　　〈ジ〉

＊解説者：川副国基．＊田村義雄（≒泡鳴）vs 妻千代子 vs 愛人お鳥を巡る明治 41 年 5 月～ 42 年末における悶着を〝一元描写〟の手法で 9 年を懸けて描き上げた五部作小説の第一作．恐らく「毫も感傷のない，醜悪なところもむき出しに迫っていく露骨な描写」が，刊行の翌月に発売禁止処分を『發展』に招いた．大正 9 年(1920)になって新潮社が改作し縮刷した版が流布するようになり，『岩野泡鳴全集』第 3 巻（臨川書店，1995）刊行まではそれが読まれていた．

□ 『闇の盃盤』（日高有倫堂，明治 41 年 4 月 8 日：1908）紫陽

＊解説者：中村光夫．＊「はしがき」によると，明治 38 年以降に「わが思想と情調とに變遷ありたれど，こと更に之を區別せ」ずに，長短 60 篇の口語体の無形律詩と散文詩を集めた第四詩集であった．中村は「彼の詩集のうち，もっとも内容の充実したもの」と評したが，泡鳴は本書を以て自然主義的象徴詩人としての経歴を閉じ，その心持ちを小説の方面に展開させることに専念した．

---

[3] 「作品解説」『日本現代文学全集 22』 講談社　1968 年 5 月 19 日　p. 409.

**巖谷 小波**（いわや さざなみ）（1870－1933）：　本名季雄（すえお）．号漣山人，大江小波，樂天居．

□ 『こがね丸』（博文舘，明治 24 年 1 月 3 日：1891）明前　〈和〉

＊解説者：福田清人．＊ 20 歳の小波が**鷗外**に序文を仰いだのち，一気呵成に 4 日間で書き上げた戯作的・教訓的な童話で，**紅葉**系の〝少年文學叢書〟が第壹篇に採用して小波を児童文学界に君臨させる契機となった．＊大町桂月のように「日本空前のお伽文学の開祖」と歓迎する向きもあったが，馬琴調は児童には敷居が高いとの批判も呈されたため，彼は 30 年後に口語体（次項参照）で書き改めた．＊絵は武内桂舟や水野年方が描いたが，複刻に際しては口絵のみ再版本に頼らざるを得なかった由である．

□ 『三十年目書き直し こがね丸』（博文館，大正 10 年 6 月 5 日：1921）

児② 児選　〈函〉

＊解説者：桑原三郎．＊ 50 歳になって 30 年前の『こがね丸』を再読した小波が，「殆ど別人の作では無いかと思はれる迄，その文體にも結構にも，我意を得ない」と思い知らされて，戯作的な表現の遊びを抑えて児童向きに言文一致体で書き改めた版．もっとも，レイアウトが工夫されているので両版の本文を読み比べられるようになっている．

□ 『當世少年氣質』（博文館，明治 25 年 1 月 17 日：1892）児①　〈和〉

＊解説者：福田清人．＊〝少年文學叢書〟の第九篇．多様な少年気質を捉えた連作的短篇 8 作を並べて少年小説の始祖とされる．同第十三篇『暑中休暇』（1892）は続篇に相当する．**坪内逍遙**の『**當世書生氣質**』（1885 ～ 86）の少年版を目途したのであろうが，「逍遙のように長編の中に群像を示す」には至らなかった．＊絵は『こがね丸』に引き続いて武内桂舟と水野年方が描いた．

**上田 敏**（1874－1916）：　号柳村．

□ 『海潮音』（本郷書院，明治 38 年 10 月 13 日：1905）明後 新選／山茶〈ジ〉

＊解説者：吉田精一 / 安田保雄．＊書名により「海外詩歌の新声を集めたもの」（安田）と想像される通り，29 詩人 57 篇（安田の解説が原典と初出誌に詳しい）の邦訳集で，なかには Shakespeare，Robert Browning，Rossetti 兄妹のような英詩人もいたが，半数を占めるのが仏詩人であった．更に訳者は，日本語を

詩的に洗練させようとの思惑から，創作的姿勢を前面化させていた．文学史的意義でも，『近代文学名作事典』（1967）によると，「フランス象徴派の紹介移植は…当時としては画期的な業績」であり，『日本近代文学図録』（1964）が「序は，わが国象徴詩運動に理論的根拠を与え」（p. 247）たと認めるように，**泣菫**，**有明**，**白秋**，**露風**，**犀星**，**朔太郎**たちを刺激して，「それまでの新体詩時代は…完全に終止符を打たれ」（安田）る方向へ流れを導いた．＊装幀は藤島武二．＊1969年4月20日に冬至書房が〝近代文藝復刻叢刊〟として安田による別冊解題（4頁）と原詩集（63頁）を添えて1,000部を複製（1,500円）していた．＊日本図書センターが2006年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

**内田 百間**（1889－1971）：　本名榮造．号百鬼園，戦後→百閒．

□ 『王様の背中』（樂浪書院，昭和9年9月15日：1934）児② 児選　〈函〉

＊解説者：平山三郎．＊幼年童話雑誌『コドモノクニ』に発表されていた9篇が本書に集められている．序文も，「この本のお話には，教訓はなんにも含まれて居りませんから，皆さんは安心して讀んで下さい」と，搦め手から好奇心をそそってくる．角書に「繪入りお伽噺」とあるように，全文が朱色で印字され，ノンブルも無く，谷中安規（たになかやすのり）版画集の印象が強く残る．＊複製されたのは，5月20日発行の帙入特装本（200部）ではなく，なぜか9月の並製本（800部）の方であった．また，見返し用紙の桃色と簀の目は印刷で再現された由である．＊1981年12月20日発行の『王様の背中：絵入りお伽噺』（六興出版）は，サイズが80％に縮小され造本も簡易化された再刻本（1,000円）．

**内田 魯庵**（1868－1929）：　本名貢太郎→貢（みつぎ）．号不知庵．

□ 『文學者となる法』（右文社，明治27年4月15日：1894）特選　〈ジ〉

＊解説者：瀬沼茂樹．＊匿名のまま三文字屋金平（さんもんじやきんぴら）による口述を装って，**尾崎紅葉**の硯友社を始めとする明治20年代の停滞した文壇に向かって毒舌を吐き散らした戯画的な評論．このために硯友社一派から長期にわたって憎まれ続けた．

＊特選の第４刷（1974 年３月１日）から，新発見の袋が帯様に巻かれている．
＊参考：鹿島茂(編)『明治の文学 第 11 巻：内田魯庵』筑摩書房 2001 年３月 20 日．読み解きの援けになる．

**内村 鑑三**（1861－1930）：

□ 『How I Became A Christian』（Keiseisha，1895）明前

＊解説者：南原繁．＊改宗に至るまでの魂の記録たる英文日記からの抜き書きで，『余は如何にして基督信徒となりし乎』の邦題で知られるが，この警醒社版は一冊しか所在が知られていないらしい．＊ドイツ，デンマーク，スウェーデン語に翻訳されていたが，日本では鈴木俊郎が邦訳し，岩波書店から 1935 年に出版されている．

**宇野 浩二**（1891－1961）：　本名格次郎．

□ 『赤い部屋』（天佑社，大正 12 年２月 15 日：1923）児①

＊解説者：澁川驍（ぎょう）．＊純文学作家でありながら，童話を『**赤い鳥**』に発表してきた宇野には再話的，私小説的，半創作的な童話が多く，善徳ばかりでない人生や死を題材にすることも避けなかった．

□ 『歸れる子』（赤い鳥社，大正 10 年７月 20 日：1921）赤い鳥

＊解説者：木俣修．＊「相當の自信を持つて」(序) 収録された 11 篇集．第一作の「揺籃の唄の想ひ出」では，語りの解り易さを確かめるために先ずローマ字で執筆したそうである．

□ 『藏の中』（聚英閣，大正８年 12 月 24 日：1919）大正

＊解説者：澁川驍（ぎょう）．＊宇野は「巧妙な話術によって，独特な作風を開拓した」が，「藏の中」は，**近松秋江**（しゅうこう）のエピソードに自らの生活体験を混ぜ込み，ユーモアとペーソスに富んでいて「大阪落語」のようだ，と**菊池寛**は評した．併載の短篇でも宇野はそうした体験にもとづいて描いたらしい．＊ 1927 年４月 25 日には昭和書房が同じ紙型から再刊している．

**江口 渙**（かん）（1887－1975）：

□ 『かみなりの子』（第一出版協會，大正 14 年 10 月 10 日：1925）児① 〈函〉

＊解説者：猪野省三．＊『**木の葉の小判**』に次ぐ第二童話集．同じ**漱石**門下の**鈴木三重吉**が「児童文学を市民的な感覚と近代的な芸術性によって立てなおそう」と興した『**赤い鳥**』に江口は作品を多数発表しており，本書はそこから生まれた．文学観においては私小説を脱却し，思想においては「革命的なロマンチシズム」で，アナーキストからテロリストへ大転換しようという時期に執筆されたために鋭い社会諷刺が込められた．

□ 『木の葉の小判』（赤い鳥社，大正 11 年 1 月 25 日：1922）赤〻鳥

＊解説者：木俣修．＊「唐傘のお土産」などの聞き書きや再話物を集めるが，「よい童話をかくといふことは，よい小説をかくのと同様に，なかなか困難」（序）であると痛感させられることになった第一童話集．

**大手 拓次**（1887－1934）：

□ 『藍色の蟇（ひき）』（アルス，昭和 11 年 12 月 30 日：1936）紫陽 〈函〉

＊解説者：原 子朗．＊出版を勧める**白秋**に，拓次は 186 篇を自選した原稿を提出していたが，何故か放置されてしまった．没後に原稿が解体され，27 年間の業績 2,400 篇から「拓次の詩性と才能の，別の可能性を大きく開示」する散文詩およびその後の作品も含めた 255 篇がこの〝追悼詩集〟のために選り抜かれ，『日本近代文学図録』（1964）によれば，「サンボリズムの影響下に，異様で香気ある官能表現はこの国に稀なものとして注目された」（p. 275）．いっぽう原は，「げてもの」詩人の印象を拓次に植付けてきた**白秋**の序文や**朔太郎**の跋文に囚われず，「まっすぐに，詩の魅力は感受されるべき」ことを求める．＊装幀も担った逸見亨（へんみたかし）（ライオン歯磨意匠部所属の版画家で，同僚として親しかった）と櫻井作次（拓次の甥）による編纂であったらしい．表紙は黒染山羊革に金箔押しという「空前の豪華版」であったから，500 部の制作費用が 2,500 圓掛かったが，定価 3 圓 80 錢という気前の良さで市販された．もっとも，独身であった拓次の退職金が流用されたので，自腹を切っての処女出版であった．

**岡本 一平**（1886－1948）：　**岡本かの子**の夫.

□ 『**漱石**名作漫畫』（1928；日本近代文学館，昭和 43 年頃：1968?）

＊解説者：小田切進．＊日本近代文学館が『現代漫畫大觀』第二編（中央美術社，1928 年 4 月 1 日）から材料を得て，『名著複刻全集 近代文学館』刊行記念に 1968 年頃に造られた豆本で，発行日の記載は無いが 270 円で販売された．＊1970 年に大阪で開催された世界万国博覧会のシンボルタワーをデザインした岡本太郎は一平の子息であった．＊ 1984 年 9 月 25 日にも，漱小 の発売に合わせて『漫画「坊ちゃん」「草枕」』と改題して再刊されている．

**小川 未明**（びめい）（1882－1961）：　本名健作.

□ 『赤い船』（京文堂書店，明治 43 年 12 月 15 日：1910）児① 〈函〉

＊解説者：福田清人．＊少女少年向けに書かれた独特の色彩感覚に溢れる初期短篇を集めた第一童話集で，「童話としての独創性をはじめてもった児童文学史上，貴重なもの」（内容見本）と評されている．『日本近代文学図録』（1964）に「一五編の童話と五編の童謡をおさめ，後年の未明童話独特の幻想の萌芽がみられる」（p. 294）との解説がある．＊装幀や挿画類はすべて渡邊與平（よへい）による．

□ 『赤い蠟燭と人魚』（天佑社，大正 10 年 5 月 19 日：1921）

大正 新選/SONY 〈ジ〉

＊解説者：上笙（かみ）一郎 / 池内紀．＊短篇小説により「刹那の美をうたい上げるネオ・ロマンチシズムの作家として地位を確立」しつつ，同様な傾向を効果的に表現した創作童話も併行して発表していたが，大正 15 年には童話作家一筋を宣言して，生涯に 100 冊以上の童話集を残した．本書はその 4 冊目で 18 短篇を含み，「現代の日本児童文学に密接につながる問題を含む」書であった．＊現存するのは遺族が所蔵する 1 部のみらしい．

□ 『金の輪』（南北社，大正 8 年 12 月 25 日：1919）児② 児選

＊解説者：福田清人．＊本文が緑色で印字された，「未明童話の特色・個性を最も強く示し」ている童話 18 篇と童謡 7 篇を収めた第三童話集．未明は卒業論文で Lafcadio Hearn を論じており，福田が謂うところの「特色」において Hearn の影響を見出せるかもしれない．＊**島村抱月**が始めた雑誌『**少年文庫**』の編集

者も勤めた．＊装幀：廣島新太郎．

□ 『小さな草と太陽』（赤い鳥社，大正 11 年 9 月 25 日：1922）赤い鳥

＊解説者：木俣修．＊「童話は，藝術中の藝術であります．虚無の自然と生死する人生とを關連する不思議な鍵です．」（自序）との信念から収録された 19 篇ちゅう『**赤い鳥**』から転載されたのは 2 ～ 3 作しかない．**鈴木三重吉**による執拗な添削を忌避したのであろう．

**小熊 秀雄**（1901－40）：　　筆名ダダイスト愁吉．

□ 『小熊秀雄詩集』（耕進社，昭和 10 年 5 月 25 日：1935）石楠　〈函〉

＊解説者：小田切秀雄．＊満州事変が始まった昭和 6 年以降に弾圧が強化されてイデオロギー離れし始めたプロレタリア詩人たちのなかで，小熊もまた「新たな活力と詩的成熟」を実現させていくことになった第一詩集．＊散見される伏せ字に対処するには，初出誌に遡ってそれを起こした『小熊秀雄全集』第 2 巻（創樹社，1990 年 12 月 15 日）のような現代版が必須になる．＊装幀：寺田政明．＊日本図書センターが 2006 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**尾崎 紅葉**（1867－1903）：　　本名德太郎．号縁山，戯作堂，半可通人，十千萬堂．

□ 『色懺悔』（吉岡書籍店，明治 22 年 4 月 1 日：1889）新選

＊解説者：福田清人．＊雑誌の値段で買える〝新著百種〟として第壹號に版元が採用した書き下ろし中篇小説で，本文冒頭には「二人比丘尼」との角書が見られる．実験的な雅俗折衷文体を取り入れており，紅葉にとっての初めての単行本がそのまま出世作になった．

□ 『鬼桃太郎』（博文館，明治 24 年 10 月 11 日：1891）児①　〈和〉

＊解説者：滑川道夫．＊**巖谷小波**が構想した五大昔噺後日談集のうちとして執筆され，鬼ヶ島で敗れた鬼の王が苦桃太郎に復讐を託すという設定．博文館が〝幼年文學〟シリーズの第壹號として出版した．＊表紙・口絵は多色刷りで，富岡永洗の木版挿画を配した草子本風ながら，尋常小学生の読者には難しすぎて，第三號すなわち大江［巖谷］小波の『猿蟹後日譚』（1891）までで頓挫した．

□ 『金色夜叉』5冊：前編・中編・後編・續編・續續編（春陽堂，明治31年7月6日～36年6月12日：1898～1903）明前 精選 〈ジ〉

＊解説者：塩田良平．＊和漢混交体による美文調としては明治期の最高峰にある長篇小説であった．女性の性格描写にも優れていて圧倒的な人気を呼んだが，作者が病を得て絶筆になった．『日本近代文学図録』（1964）の解説では，「腹案自筆原稿によると貫一，お宮の関係はハッピーエンドに構想されていた」（p. 237）らしいが，小栗風葉が引き継いで結末をつけた巻は〝蛇足〟と見られており，今回の複製の対象にされてはいない．しかしいずれにせよ，「日本の小説には珍しく大きなスケールのもとに広く明治という時代を描こうとしていることを見のがすわけにはいかない」というのが，『近代文学名作事典』（1967）の示した評価であった．＊菊版5冊で863頁あり，鏑木清方も口絵を提供した．

**尾崎 放哉**（ほうさい）（1885－1926）：　本名秀雄．号梅史，梅の舎，芳水．

□ 『大空』（たいくう）（春秋社，大正15年6月20日：1926）紫陽 〈函〉

＊解説者：澁川驍（ぎょう）．＊従妹の澤 芳衛に失恋してからは号を放哉で通すようになった．社会性に欠き酒乱気味もあって職場を転々としながら，持病が祟って無収入のうちに41歳の生涯を終えた．第一高等學校以来の先輩荻原井泉水が主に晩年の詠から726句を選び，尾崎の戒名大空放哉居士にちなんで書名を付けた．彼の唯一の句集で，「重い心理を見つめ」て「淋しい心境」を訴える句が目立ち，後半は随筆「入庵雑記」や井泉水宛書簡その他を収録する．＊同じ版元が1956年2月20日に出した『大空』は，井泉水からの返信も収録し，新字体漢字で組み直し，構成も装幀も改められた「再刻」版であった．国会図書館のOPACによると，同社はその後も1972年に新版，1973年に増補版，1981年に新装版を出している．＊日本図書センターが2006年に〝愛蔵版句集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**小山内 薫**（1881－1928）：　筆名なでしこ，鸚鵡公．

□ 『石の猿』（赤い鳥社，大正10年6月5日：1921）赤い鳥

＊解説者：木俣修．＊小山内による唯一の童話集で，創作童話3篇と外国物に

由来する再話童話6篇を収める．彼は『**赤い鳥**』の創刊号にも寄稿していたが，**三重吉**が不断にそして無断で添削の筆を入れていた同誌からは3篇しか本書に転載していない．

□ 『三つの願ひ』（イデア書院，大正14年7月20日：1925）児②

＊解説者：冨田博之．＊築地小劇場を興して新劇運動を推進した小山内による唯一の童話劇集で，「大正デモクラシーの生んだ，子どものための」見せる翻案風童話劇が6篇収録されている．

**大佛 次郎**（1897－1973）：　本名野尻清彦．野尻抱影の弟．

□ 『風船』（1955；ほるぷ出版，昭和47年12月1日：1972）自選　〈函〉

＊解説者：本人(巻末)・小田切進・横山隆一・沢寿郎．＊占領者によりアメリカ化された村上春樹の家庭と，彼の小児麻痺の娘を主人公にした1955年発表の新聞小説で，「私の代表作と見られている「帰郷」よりも「風船」が遙か上の作品だとひそかに信じている」（自筆解説）と，会心の長篇を自選において再刊する．＊題字の揮毫は本人で，挿絵には（国宝級の）所蔵品を撮す．装幀は染色研究家（二代目）龍村平藏で，表紙を能衣装の水衣（みずごろも）で包んだ凝り様．

**押川 春浪**（しゅんろう）（1876－1914）：　本名方存（まさあり）．

□ 『海底軍艦 海島（とう）冒険奇譚』（文武堂，明治33年11月15日：1900）児①

＊解説者：上笙（かみ）一郎．＊東京専門學校（現早稲田大学）在学中に本作を執筆し，**巖谷小波**に認められた．彼の〝武侠六部作〟の皮切りで，『**赤い鳥**』に代表される藝術的児童文学と対向する大衆的児童文学のジャンルにおける軍事冒険小説の領域で嚆矢となった．但し，主人公である少年少女たちの造型がお粗末だったので，冒険小説としての成熟を見るには山中峯太郎や海野十三が登場する昭和初年を待たねばならなかった．

**尾上 柴舟**（1876－1957）・**金子 薫園**（1876－1951）：

尾上の旧姓北郷，本名八郎．金子の旧姓武山，本名雄太郎．

□ 『叙景詩』（新聲社，明治 35 年 1 月 1 日：1902）山茶

＊解説者：岡保生．＊文藝誌『新聲』（新聲社）に掲載されてきた和歌から金子が 282 首を選び，「叙景詩」～「夏」～「秋」～「冬」～「雑」に分けて配置する．更に，尾上が巻頭の「『叙景詩』とは何ぞや」を執筆したうえで 50 首を「敗蕉」に，金子が「寒菊」に 50 首を持ち寄って一本とする．この歌集は，『日本近代文学図録』（1964）によると，「新潮社の恋愛至上的な浪漫歌風に対立して，自然を対象とした叙景歌をもって第一義」（p. 243）としていた．＊表紙：結城素明．挿絵：結城と平福百穂．

**葛西 善藏**（1887－1928）：

□ 『子をつれて』（新潮社，大正 8 年 3 月 1 日：1919）大正　〈函〉

＊解説者：浅見淵．＊新潮社の〝新進作家創作集〟に採用されて，俄に注目される作家となった．「滅びの場の氣弱い謙虚さと，自恃の與える傲慢」とが撚り合わさった私小説を書いたが，遅筆で寡作であったためにかえって名人視されたりもしたらしい．

**梶井 基次郎**（1901－32）：

□ 『檸檬』（武藏野書院，昭和 6 年 5 月 15 日：1931）昭和 精選/CatH〈函〉

＊解説者：高田瑞穂 / 杉本秀太郎．＊プロレタリア文学全盛の大正後期にあって，耽美的文学の流れを汲んだ梶井は「鋭敏な感受性と強い生命の把握力」（内容見本）をもって，当時の知識人に共通する知的頽廃という心象風景を捉えた．本書は 18 短篇を収めた生前唯一の作品集であったが，実質的な〝梶井基次郎全集〟と受け取られてもきた．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

**假名垣 魯文**（1829－94）：　　本名野崎文藏．号鈍亭，野狐庵，猫々道人．

□ 『安愚樂鍋』5 冊：初編・貳編上・貳編下・三編上・三編下

（誠之堂，明治 4 年 5 月～5 年 1 月：1871 ～ 72）明前/秀選　〈和〉

＊解説者：塩田良平 / 稲垣達郎．＊新旧交代期の文壇にあって「当世の穿ち」を看板にすることで生き残った江戸戯作者による代表作で，式亭三馬の『浮世床』（1813 ～ 14）の枠組みを利用している．『近代文学名作事典』（1967）は,「魯文の変わり身の早さ，無自覚ぶり…それだけに西洋の文物を無批判にとり入れた浅薄な文明開化の世相を過不足なくとらえて，生き生きとした風俗絵図を展開することが可能であった」という穿った紹介をしている．＊本書には異本が多いらしく，明前 での底本は表紙が菊唐草模様で型押されたものであったが，秀選 では底本が「より先刷と考えられるローマ字ちらし模様本」[4] に変更された．＊参考：『牛店雑談安愚樂鍋 用語索引』国立国語研究所 1975 年 3 月 1 日．異本 17 種について比較がなされている．参考：ねじめ正一（編）『明治の文学 第 1 巻：仮名垣魯文』筑摩書房 2002 年 6 月 25 日．読み解きの援けになる．

**金子 光晴**（1895－1975）：　　本名大鹿安和，保和．

□ 『鮫』（人民社，昭和 12 年 8 月 5 日：1937）山茶　〈函〉

＊解説者：清岡卓行．＊「がつがつと書く人間になるのは御めんです．よほど腹の立つことか，輕蔑してやりたいことか，茶化してやりたいことがあつたときの他は今後も詩は作らないつもりです．」（自序）．また，1937 年の日中戦争を誘引した軍国主義を巧妙・痛烈に批判した 7 篇からなるこの詩集は 200 部しか印刷されなかったが，「日本の二十世紀前半の詩の流れにおいて，おそらく**萩原朔太郎**の『**青猫**』…と並んで最も傑出したもの」と，清岡は称賛している．＊装幀：吉田一穂．木版：田川憲一．＊ 1970 年 9 月 30 日に名著刊行会より〝稀覯詩集復刻叢書〟（セット価 5 万円）のうちとして複製されている．＊日本図書センターが 2004 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」

[4] 秀選 の『作品解題』p. 113.　なお 明前 添付の「おことわり」には,「第三編の上巻第二十一丁～第二十六丁と第三編の下巻第二十一丁が入れかわったまま製本されています．」との告知が見られる．

を新字体で再現しようとした.

**川島 忠之助**（1853－1938）：

□ 『八十日間世界一周』前編・後編（慶應義塾出版社，明治 11 年 5 月 31 日，13 年 6 月 24 日：1878 ～ 80）明前 秀選

＊解説者：川島順平．＊日本最初の翻訳小説であり，日本にフランスの空想小説家 Jules Verne（1828－1905）を流行らせることになったが，訳文が漢文調であったために売れ行きは悪かった．＊忠之助の長子で早稲田大学教授（フランス文学）による解題が，訳者の人となりを簡潔に描いて参考になる．＊参考：本書と川島の経歴に迫った富田仁は，『ジュール・ヴェルヌと日本』（花林書林，1984 年 6 月 20 日）の「はしがき」で，川島訳を原典から訳出した「わが国最初のフランス文学の翻訳」としている.

**川端 茅舎**（ぼうしゃ）（1897－1941）：　本名信一（のぶかず）.

□ 『川端茅舎句集』（玉藻社，昭和 9 年 10 月 4 日：1934）石楠　〈函・ジ〉

＊解説者：石原八束．＊画家を志していた茅舎が，『ホトトギス』に投句して掲載されてきた大正 13 年（1924）～昭和 8 年の俳句から 300 句を自選し，大震災（1923）の起きた〝秋〟に始まる四季順に配列した．うち続く人生の試練に見舞われたなかで，青年期から親しんでいた仏教思想に「みずからの詩的浄土を形成した」とされる第一句集．＊師と仰いできた**高濱虚子**から序文を得て，初版は 1,000 部発行であった．なお，複刻でも原本のままにセロファン紙が表紙を蔽っている．＊1946 年 9 月 15 日になって，奈良の養徳社から川端龍子（りゅうし）（異母兄）の装幀で『定本 川端茅舎句集』が出されたが，それには本書以後に詠まれた句も併せたうちから虚子により 1,000 句が選ばれていた.

**川端 康成**（1899－1972）：

□ 『淺草紅團（くれないだん）』（先進社，昭和 5 年 12 月 5 日：1930）特選／珠⑩　〈函〉

＊解説者：長谷川泉 / 保昌正夫．＊新感覚派登場以前から既に「華麗な新感覚派的手法を用い」，その手法が廃れたあとも「新たなる生命を付与して生かし

た唯一の存在」であった川端は，標題作および掌(たなごころ)の小説 6 篇によって，その生態を鮮やかに捉えて「エロ・グロ・ナンセンスの浅草裏面を探訪させ」てくれる．＊装幀：吉田謙吉，口絵：太田三郎．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟(1985) は複製本ではない．

□ 『伊豆の踊子』(金星堂，昭和 2 年 3 月 20 日：1927)

昭和 新選 珠⑩ / SONY / CatH 〈函〉

＊解説者：長谷川泉 / 竹西寛子 / 高橋英夫．＊大正 10 年 (1921) ～ 15 年発表の短篇小説を集める．長谷川によると，「新感覚派の中心となった**横光利一**ほど前衛的な実験小説を発表することなく，新感覚派の要素は，掌の小説…に認められる．『**雪國**』以降は…日本文学の古典的伝統美に沈潜して，微妙な心理の機微」を川端は描くようになった由である．＊装幀：吉田謙吉．八木福次郎 (1991) によると，初版は 20 ～ 30 部しか売れなかったので，翌年に奥付を普及版のものに貼り替えて，函入からカバー装に改めて再発売された (p. 107)．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟(1985) は複製本ではない．

□ 『感情装飾』(金星堂，大正 15 年 6 月 15 日：1926) 昭和 精選 珠⑩ 〈函〉

＊解説者：山本健吉．＊二十歳代からの四半世紀間に「若い日の詩心の発動」であるかのようにして書かれてきた掌篇小説のうち 35 篇を収めた第一集．但し目次には「掌の小説三十六篇」とある．「詩のエキスを煮つめたような作品の内容はヴァラエティに富み，川端的発想の原型に近いものを随所に見ることのできる宝庫であろう．」(内容見本) とも目されている．＊装幀：吉田謙吉．

□ 『級長の探偵』(中央公論社，昭和 12 年 12 月 20 日：1937) 児② 〈函〉

＊解説者：藤田圭雄(たまお)．＊新進時代の川端が生活のために雑誌に書いていた少年少女小説のうち 9 篇を「破天荒な豪華本」に仕上げた当の編集者であった藤田が，それを 児① において複刻したいと川端に申し出たことがあり，「いやです」と断られたらしい．＊しかし，川端は自作の児童物に愛着を示しており，一部の作品を入れ替えて新字体漢字新仮名遣いに組み直した『川端康成少年少女小説集』がノーベル文学賞受賞を記念して 1968 年 12 月に中央公論社により再刊されていた先例に倣って，没後の 児② (1974) において複刻が実現した．

□ 「眠れる美女」（自筆原稿）自選

＊解説者：長谷川泉（小冊子）・小田切進・北條誠・武田勝彦．＊ノーベル文学賞を 1968 年に受賞し 1972 年 8 月に自殺した川端が，1960 ～ 61 年に『新潮』に発表していた「眠れる美女」から第 1 ～ 5 回，第 7 ～ 15 回を自筆で転写した 172 枚を，ほるぷ出版が自殺の 4 ヶ月後に長谷川筆の解説冊子（13 頁）を添えて複製した．＊欠落部分の探索は成果を得られなかったとの詫び状が，自選の刊行 2 年後の 1974 年 12 月に購読者宛に送達された．

□ 『雪國』（創元社，昭和 12 年 6 月 12 日：1937）昭和 秀選　〈函・挿〉

＊解説者：中村光夫．＊『近代文学名作事典』（1967）は，「これはたいへん抽象的な小説である．駒子も葉子も，感覚的に，まことにあざやかに描き出されているが，それは女の生理あるいは生命を純粋に抽出してつくられた像で，現実の女性ではない．モデル詮議が無用なゆえんである．」と，作品の特質を捉えている．＊「雪國」は，昭和 10 年～ 23 年（1948）に数社の雑誌に分載され，書き直されて，短篇の緩やかな集合体として仕上げられていったので，今回複刻された原本は完結以前の『雪國』ということになる．＊原本に挿み込まれていた 12 頁の「諸家の批評」も同時に複製されている．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

□ 「雪國抄」2 冊（毛筆原稿）自選　〈和〉

＊解説者：藤田圭雄（たまお）（小冊子）・小田切進・北條誠・武田勝彦．＊ほるぷ出版が毛筆による転写版の複製を川端に提案していたので，「以上二冊 昭和四十七年一月二月書く 康也」と添え書きされた和綴じの 110 余枚が没後に発見された．＊藤田によると，川端は『**雪國**』の冒頭約四分の一を用いて，更にそこから五分の三を削って，「鮮かな駒子像…洗練されつくした川端文学の究極の姿」を描き出していた由である．＊題字：川端本人による．

**河東碧梧桐**（かわひがしへきごとう）（1873－1937）：　本名秉五郎（へいごろう）．

□ 『碧梧桐句集』（俳書堂，大正 5 年 2 月 5 日：1916）特選/石楠　〈函〉

＊解説者：楠本憲吉 / 福田清人．＊**子規**門下でも二峯と称され，**高濱虚子**を超えた時期もあった碧梧桐は，季を捨てて定型を破って〝新傾向〟に自滅してい

くのであるが，選者大須賀乙字はそうなる以前の時期に傾斜させながら 1,394 句を本書のために選んでいた．＊大須賀と選句基準を異にした同様の句集が，龜田小蛄（輝文館，1940），喜谷六花（櫻井書店，1947），喜谷・瀧井孝作（角川書店，1954）により試みられてきたと福田は教える．更に，栗田靖(編)『碧梧桐全句集』（蝸牛社，1992）が 18 歳以来の 14,000 句を集成している由．

**蒲原 有明**（1876－1952）：　　本名隼雄．

□ 『有明集』（易風社，明治 41 年 1 月 1 日：1908）精選 紫陽

＊解説者：野田宇太郎．＊文語定型詩 52 篇を収めた第四詩集で，『近代文学名作事典』（1967）によると，「まぎれもない日本人の魂の所産たる独自の象徴詩風を完成した」が，自然主義全盛期に刊行された間の悪さから「偶像破壊の目標とされ，いわれなき非難の集中攻撃を受けた」そうである．大正期に評価を得て，「**薄田泣菫**の『**白羊宮**』とともに，わが詩壇に象徴詩を確立した近代詩集の双璧」（内容見本）と見られるようになった．＊装幀は斎藤松洲らしい．ジャケットの有無は不明．口絵に「著者がもっとも嫌悪した写真」が用いられ，初版に異本が多く誤植も多かった．野田が蒲原から預かった正誤表を『作品解題』に掲載し，紫陽の『解説』でも「本文中には詩集として最も致命的な誤植も二十三ヶ所」あったと野田は指摘する．＊蒲原は改稿することが頻繁だったので，『定本蒲原有明全詩集』（河出書房，1957）まで本文が揺れ続けた由である．

□ 『春鳥集』（本郷書院，明治 38 年 7 月 4 日：1905）明後　　〈ジ〉

＊解説者：野田宇太郎．＊象徴詩風を英国詩人から直接取り入れて，『日本近代文学図録』（1964）によると，「近代人の心理を微妙に表現」しており，「象徴詩について述べたその序は詩論史上重要な意味」（p. 246）を持ったらしい．挿画として青木繁の「海のさち」を転載する．＊初版の奥付には 27 日印刷と 28 日印刷の 2 種があり，背クロスにしても 6 色あるなかで，今回複製されたのは 27 日付の青背表紙本．

**菊池 寛**（1888－1948）：　本名寛（ひろし）．筆名比呂士，草田杜太郎．

□ 『三人兄弟』（赤い鳥社，大正 10 年 3 月 28 日：1921）赤い鳥

＊解説者：木俣修．＊幼年期での文藝との出遭いを大切と考えた菊池の 8 篇集で，*Robinson Crusoe* のモデルに遡った「本當のロビンソン」も含まれている．

□ 『藤十郎の戀』（新潮社，大正 9 年 4 月 10 日：1920）大正　〈ジ〉

＊解説者：藤木宏幸．＊「藤十郎の戀」は，実在の歌舞伎役者の坂田藤十郎（1647－1709）が試みた現実主義を現代の作劇法において確立しようと，菊池が 1916 年に戯曲化を試みて，1919 年に小説化し，再び脚色した一幕物．「敵討以上」も，自身の短篇「恩讐の彼方に」（1919）を脚色した三幕物．「後序」には収録 5 作への菊池の所感も示されている．＊表紙は木版三色刷りで，書名と著者名が印刷されたセロファンが蔽せられている．

**岸田 國士**（くにお）（1890－1954）：

□ 『チロルの秋』（第一書房，昭和 6 年 6 月 15 日：1931）昭和

＊解説者：磯貝英夫．＊第一戯曲集である本書は『岸田國士戯曲集』として初刷 1,500 部が大正 14 年（1925）9 月 12 日に，第 2 刷 500 部が 15 年 9 月 10 日に，そして昭和 2 年（1927）年 6 月 15 日には『チロルの秋』と改題して訂正第 3 刷 1,000 部が出版された．ところが，娘で女優の岸田今日子が所蔵する昭和 6 年の『チロルの秋』訂正版が 昭和 で複製された．

**北川 冬彦**（1900－90）：　本名田畔（たぐろ）忠彦．

□ 『檢溫器と花』（ミスマル社，大正 15 年 10 月 25 日：1926）連翹　〈ジ〉

＊解説者：保昌正夫．＊詩人としての「出発はダヾの精神」であった冬彦が，1925 ～ 26 年頃に**安西冬衛**との交友を通して生み出してきた短詩から自選してまとめた第二詩集で，書名の「檢溫器」と「花」に，「暗き文學から明るき文學」への転機を経験したことが暗示されている．解説者保昌は，「時代の先端を行ったという以上に，時代の先取りを果たしていた」詩集であったと評する．＊冬彦が装幀して挿画も描き，自費出版にしては「なかなかの豪華本」の仕上げになっていて，500 部を刷ったらしい．＊参考：『北川冬彦詩集』（寶文館，1951

年 9 月 20 日）所収の「著者の解説」（pp. 313－334）.

**北原 白秋**（1885－1942）：　　本名隆吉.

□ 『思ひ出』（東雲堂書店，明治 44 年 6 月 5 日：1911）

明後 新選 山茶/珠⑥　〈ジ〉

＊解説者：木俣修 / 石丸久. ＊この第二詩集について白秋は，２年前の象徴詩的な『**邪宗門**』があたかも第一詩集の前半部であり，抒情詩的な『思ひ出』が後半部に相当するよう感じていたらしい．本書の基調について，「豊かな感情と，鋭い感覚の織りなす南国情緒を背景とした幼時の回想であり，とりわけ妖しいウィタ＝セクスアリスである」と，『近代文学名作事典』（1967）は解説している．結局，この「序詩外七章二百十五篇」からなる自装・自筆挿画の抒情小曲集によって，彼は詩壇の王座に就くことになった．＊ジャケット・遊び紙・巻末書目の表記通りに〝思ひ出〟と記述したが，背表紙と題扉は〝おもひで〟，表紙の平には〝O MO I DE〟と記されている．また，「わが生ひたち」（pp. IX-XLVII）には〝TONKA JOHN〟とも署名されている．かくして多様な〝思い出〟を想わせる．＊ 1967 年 6 月 1 日に，白秋の郷里柳川にある料亭御花（おはな）が，野田宇太郎執筆の解説（34 頁）を巻末に綴じ込んだ複製〝筑後柳河版〟を柳川市内限定で販売（650 円）した．＊日本図書センターが 1999 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした.

□ 『桐の花』（東雲堂書店，大正２年１月 25 日：1913）大正 連翹　〈ジ〉

＊解説者：木俣修. ＊「近代的な頽唐享楽の新体」を打ち出して，「自然主義歌風のようやく沈滞を示しだした大正初期の歌壇に多くの共鳴を呼び」起こした第一歌集.『近代文学名作事典』（1967）は，「古い伝統を負う短歌に，近代の仏蘭西詩の詩情が豊かに盛られている」と解説する．＊自装で，白地の表紙に銀箔押しの文字と図版を配し，14 葉ある中扉に別刷りにした蔵書票サイズのカットが貼付されている「凝りに凝った造本」．＊ 1933 年 6 月にアルスが〝復刻新版〟を出したが，その際には「若干の改訂」が歌に加えられて，小品「ふさぎの蟲」（pp. 449－500）は削除されたらしい.

□ 『邪宗門』（易風社，明治 42 年 3 月 15 日：1909）

明後 精選/紫陽 珠⑥ 〈函〉

＊解説者：木俣修 / 高田瑞穂．＊情調象徴詩を追求した 111 編よりなるこの第一詩集は，「感覚の解放と官能の陶酔，ほしいままな想像の羽ばたきはいまだかって誰にもなし得なかった」ほどの境地を拓いて，25 歳の白秋を日本近代象徴詩壇の頂点に据えた．また高田によると，**蒲原有明**の『**春鳥集**』（1905）から「理智的・観念的傾向」を継承した**三木露風**の『**廃園**』（1909）と，『春鳥集』の「享楽的傾向」を継承した白秋とが〝白露時代〟を展開させることになった．＊自費出版で，装幀は石井柏亭．挿画を石井の他**木下杢太郎**や山本鼎も描いて，空前の豪華詩集が誕生した．＊ 1967 年 7 月 10 日には大和書房が，矢野峰人（ほうじん）による別冊解説（8 頁）を添えて〝初版・復原版〟を 1,000 部限定で販売（2,200 円）したが，その際に後付の 13 頁分は原本から復原されなかった．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

□ 『月と胡桃』（梓書房，昭和 4 年 6 月 20 日：1929）児② 〈函〉

＊解説者：木俣修．＊大正末期の白秋は，初期の浪漫性豊かな作風から転じて，「子供の現実生活を凝視する」ようになった．大正 13 年（1924）作の「からたちの花」に始まり昭和 4 年に至る「彼独自の香気と気韻にあふれ」た作品を集めた本書は，おそらく自らの装幀によって，従来の絵入童謡集とは異なる重厚な単行本に仕上げられている．

□ 『東京景物詩』（東雲堂書店，大正 2 年 7 月 1 日：1913）特選/珠⑥ 〈ジ〉

＊解説者：木俣修 / 稲垣達郎．＊この第三詩集には，「のちに白秋が開拓してゆく小唄・俗謡・童謡などの要素を豊かに包含する佳作」が多い．＊自装で，本書もまた凝りに凝った詩集であった．口絵は**木下杢太郎**．＊印字されたセロファン紙という稀少なジャケットも複製された．＊増補され『雪と花火』と改題された第三版（1916）も自らの新装幀で，それが定本とされるようになった．

□ 『トンボの眼玉』（アルス，大正 8 年 10 月 15 日：1919）児① 児選 〈函〉

＊解説者：木俣修．＊『**赤い鳥**』で童謡部門を担当し，「いつまでも新らしい，而かも日本人としての純粋な郷土的民謡を復興さしたい」（はしがき）との意気込みで，毎号に 1 ～ 2 篇ずつ発表してきたなかから，「雨がふります…」など

39 篇の創作童謡を集めた第一童謡集．＊装幀は矢部季(すえ)により，清水良雄や**初山滋**も口絵を描いたとされる．＊〝わくわく！名作童話館〟（日本図書センター，2006）での復刻は文字遣いや装幀が現代化されている．

**北村 透谷**（1868－94）：　本名門(もん)太郎．号桃紅，蟬羽，脱蟬ほか．

□ 『楚囚之詩』（春祥堂，明治 22 年 4 月 9 日：1889）明前 連翹　〈和〉

＊解説者：小田切秀雄．＊ Byron の *The Prisoner of Chillon*（1816）に触発されたこの自由律創作詩には「詩人の深い内面の衝迫があり，それが自己にふさわしい表現形式を求めて，未熟を恐れずにあふれ出はじめている」ところに文学上の意義があったが，透谷自身は「餘りに大膽に過ぎたるを慚愧し」て，この『楚囚之詩』を発売直前に回収し，保存用の一冊を除いて破棄してしまった．それでも何部かが市場に流出したようで，その後に発見された事例と経緯を稲垣達郎が 連翹 の『解説』（「ノート」pp. 170－72）で言及紹介している．＊ 1930 年に白木屋古書店で発見された最初の原本は，古書籍商の石川巌によって同年 8 月 25 日に 100 部だけ複製されたが，「わずかな費用を惜しみ，寫眞凸版によらずに活字版にしたために…誤植や，また脱字や替字が多く，且つ句讀點中に白ゴマ點「。」が澤山使われていることを全部見落として」，折角の復刻を「無価値なもの」にしてしまった由.[5] そうしたなか，1972 年の売り立てでは「最高美本」が現れて，連翹 編集部がそれを照合した結果，明前 で制作された複製本の本文に「新たに感嘆符「！」を加え」る成果に到ったそうである！

□ 『蓬萊曲』（養眞堂，明治 24 年 5 月 29 日：1891）特選/石楠

＊解説者：小田切秀雄 / 佐藤善也．＊ Goethe や Byron からの影響も受けて，主人公に独白で内面を語らせようとする幻想的な劇詩で，透谷も『**楚囚之詩**』に代わる第一作目であると自認した．佐藤は，「現世のみならず来世をも含めた世界全体とそれらを支配する力との関係を正面から問い描こうとした，近代日本文学に極めて稀な作品」と評価する．しかし Shakespeare の blank verse（無

[5] 勝山清一郎（編）『透谷全集』第 1 巻（岩波書店，1950; 1960）所収の「解題」より p. 415.　日本近代文学館・ほるぷ出版が活字新組による複刻を極力避けてきた根拠になっている事例でもある．

韻詩）に範を得て創始した「内面的思惟文体」は，日本の近代文学にとっては異色な〝新体〟であって，当初のうちは文壇から理解されなかったらしい．その後の透谷は専ら文藝評論に勤しむようになった．自費出版であった本書は売れ行きが奮わず，翌年には半額で，没後には残部が原価で特売された．

**木下 杢太郎**（1885－1945）：　本名太田正雄．号竹下数太郎，きしのあかしや．

□ 『食後の唄』（アラヽギ發行所，大正８年 12 月 10 日：1919）石楠

＊解説者：野田宇太郎．＊『明星』の流れを汲む〝パンの会〟に活躍した杢太郎は，『緑金暮春調』の出版を企てたらしいが，**北原白秋**の『**邪宗門**』（1909）レベルの装幀を望んだのが祟って刊行には漕ぎ着けなかった．[6] それで本書は，**島木赤彦**に助力を仰いで出版されることになった．第一詩集として，明治 42 年（1909）～大正５年執筆の耽美享楽的な 75 篇を収録したが，内容的には第二詩集並みの貫禄を見せていると評価された．そして野田は，「詩と造本の美術性を綜合して，読んでたのしく，見て美しい，稀代の近代詩集」と，手放しの称賛であった．＊自序と白秋の序文あり．扉絵は自画像で，挿絵も杢太郎による．装幀は杢太郎と小絲源太郎で，「当時としては他に類のない瀟洒で而も豪華」な仕上げの詩集であった．[7] ＊日本図書センターが 2004 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**木下 利玄**（1886－1925）：　本名利玄．

□ 『銀』（洛陽堂，大正３年５月 26 日：1914）大正　〈函〉

＊解説者：木俣修．＊自身も創刊に関った『白樺』における頽唐的雰囲気を，**北原白秋**の『**桐の花**』（1913）からも影響を受けながら，299 首に詠み込んだ第一短歌集．＊〝白樺叢書〟の一冊で，竹皮の表紙と天金，銀色ベタ刷りの見返しと函という凝った装幀は**有島武郎**の弟生馬と三浦直介によるもの．

---

[6] 『緑金暮春調』（148 頁）は，やはり野田による編集で 1972 年に横浜の大雅洞から 125 部（10,000 円）が出版されたようである．
[7] 『装丁』（1998）所収の「本の装釘」で，装幀家としての杢太郎の回顧談を読める．

□ 『紅玉』（玄文社，大正８年７月３日：1919）連翹 〈函〉

＊解説者：紅野敏郎．＊大正３～６年に詠まれた短歌 520 首を収録した第二歌集．「ほとんど歌壇を意識しなかった」利玄は，「植物への異常な関心，熱愛」を詠うことも多く，「口語的発想と的確なリズム」を持ち味にした．＊７月３日発行で検印の無い 600 部本から複製された．他にも７月 20 日発行の検印が在る 400 部本と，同日付の非売特製版も 22 部あったらしい．＊ 1925 年 11 月 10 日には改訂版が紅玉堂書店より刊行された．

**草野 心平**（1903－88）：

□ 『第百階級』（銅鑼社，昭和３年 11 月９日：1928）紫陽

＊解説者：山本太郎．＊半世紀後に執筆された「著者覚え書」（後述の全集 pp. 507－509）によると，この「処女詩集といふことになつてゐる「第百階級」（銅鑼社刊）は…静岡県の百姓詩人杉山市五郎が手動式の名刺印刷機で刷つてくれたもので，先づ類例のないほど誤植が多く」，目次もノンブルも無かった．しかも，「押売りでなく自然に売れたのはたつた三冊」だったそうである．しかし解説する山本は，収録された 45 篇の詩が「ジュラ紀よりえんえんと生きのびてきた蛙族への讃美」であり，「「蛙」自体の悲しくも美しい生存感覚」を映し出していることから，「蛙を語り部にして「人類への挽歌」を歌いつづけてゆく」という〝蛙の詩人〟の着想のユニークさに刮目する．＊自装で 100 部が印刷され，そのうち 10 部を「序」を寄せていた**高村光太郎**が購入した．＊その後も草野は筆を加え，1973 年５月に『草野心平詩全景』（筑摩書房）を 1,200 部限定（10,000 円）で出版し定稿とした．[8] ＊『草野心平全集』第１巻（筑摩書房，1978 年５月 30 日）では，杉山市五郎が退蔵していた初版の自筆原稿から誤植や脱落が大幅に訂正され，その本文と定稿を対照させた頁構成が採られ，初版本と訂正本での本文の異同が巻末の「解題」（pp. 511－19）に示されている．

[8]「著者覚え書」によると，『詩全景』では「戦争応援の作品は没にした」（p. 509）由．

**楠山 正雄**（1884－1950）：

□ 『莓の國』（赤い鳥社，大正 10 年 8 月 28 日：1921）赤い鳥

＊解説者：木俣修．＊ 12 篇ちゅう 4 篇は創作で，8 篇が「ピーターパン」（本邦初訳）のような再話物．本書には創作された児童劇と再話による児童劇とが各 1 編ずつ含まれている．＊清水良雄描画．

**國木田 獨歩**（1871－1908）：　本名哲夫．筆名鐵斧生．

□ 『運命』（佐久良書房，明治 39 年 3 月 18 日：1906）精選　〈ジ〉

＊解説者：福田清人．＊**樋口一葉**や**芥川**と並んで近代文学を代表する短篇作家で，本書は彼の 6 冊あった短篇集のうちの 3 冊目．「もっとも粒を揃えた」9 篇の小説が収録されている．＊「小杉未醒の表紙絵，滿谷国四郎の口絵による美装本」（内容見本）．

□ 『武藏堅（の）』（民友社，明治 34 年 3 月 11 日：1901）明前 新選/SONY

＊解説者：中島健蔵 / 松山巖．＊新聞に書いてきた評論や随想 18 篇を，**宮崎湖處子**他による共著書『**抒情詩**』（1897）に國木田が寄せた「獨歩吟」に由来する筆名で集めた最初の単著．当初反響はほとんど無く，38 歳で死去してから獨歩は文豪であると仰がれ始めた．＊野田宇太郎が編集・解説し，市内のみで頒布された『武藏堅』（武蔵野市，1965 年 6 月 20 日）は，正字で活字が組み直されて地図や写真が添えられているが，完本ではない．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

**窪田 空穂**（1877－1967）：　本名通治（つうじ）．筆名小松原春子，にげみず．

□ 『まひる野』（鹿鳴社，明治 38 年 9 月 20 日：1905）明後/連翹　〈ジ〉

＊解説者：武川忠一 / 窪田章一郎．＊長寿の詩人・国文学者で，集中的に散文を執筆した数年間を跨いで 23 の詩歌集を著し 15,000 篇の詩を残した．その第一集として，「低い姿勢で，人生を明察，味到し，批評する深さ」を示す短歌 293 首と新体詩 33 篇を収録する．また子息で歌人の連翹解説者によると，空穂は牧師植村正久の感化があって受洗し，「静かな心境に自己を見出そうと願う文学」を求めたそうである．＊装幀は平福百穂（ひゃくすい）．初版 1,500 部．＊明後では，

未確認であったジャケットが連翹で複製されるようになった.

**久保田 万太郎**（1889－1963）：　号暮雨，傘雨

□ 『一に十二をかけるのと 十二に一をかけるのと』

（中央公論社，昭和 12 年 12 月 20 日：1937）児②　〈函〉

＊解説者：根本正義．＊**谷崎**と並ぶ耽美派作家が『**赤い鳥**』の後期（1931 ～ 36）に発表してきた少年少女劇のうち代表的な作品を 11 篇収録する．ほとんどが西洋の童話劇の翻案であったが，本書以前には観せるための脚本か演じさせるための脚本かを初出時に明確にしていなかったので，教育の現場に取り入れられ始めたのは戦後になってからであった.

□ 『おもちやの裁判』（赤い鳥社，大正 14 年 3 月 31 日：1925）赤〻鳥　〈ジ〉

＊解説者：木俣修．＊6 篇の童話劇集．子供に演じさせるためではなく観せるための執筆であったことを久保田は『**一に十二をかける…**』になって初めてその「あとがき」で明言した.

□ 『ふくろと子供』（赤い鳥社，大正 10 年 5 月 5 日：1921）赤〻鳥

＊解説者：木俣修．＊4 年後の『**おもちやの裁判**』と同じに，ヨーロッパ近代劇を換骨奪胎した児童劇 6 篇を収めて，この分野を日本に興した．後年に『**一に十二をかける…**』の「あとがき」で，子供に観せるための執筆であったと彼は意図を明かした.

□ 『道芝（みちしば）』（俳書堂，昭和 2 年 5 月 20 日：1927）山茶　〈函〉

＊解説者：安住敦．＊小説家・劇作家の〝余技〟として 20 年間に詠んできた俳句から 149 句を季題別に配した第一句集で，それ「以外の所産のすべてを未練なくわたしからふり捨てゝ悔いないつもり」（跋）であったらしいが，更にふり捨てて，最後の自選句集『草の丈』（1952）掲載の 730 句において『道芝』から継承されたのは 87 句のみであった．**芥川**は久保田の句に人事句が多く，抒情的で，〝けり〟で収める傾向にあると序文で指摘している．＊安住は本書での誤植と，残された 87 句に対する字句の変更を『解説』にリスト化している.

**幸田 露伴**（1867－1947）：　本名成行（しげゆき）．号叫雲老人，蝸牛庵ほか．

□ 『尾花集』（青木嵩山堂，明治 25 年 10 月 3 日：1892）新選/SONY

＊解説者：塩田良平 / 中野三敏．＊同年生まれの**紅葉**とともに〝紅露時代〟を創出する切っ掛けとなった名作「五重塔」を収める．本書は収録諸作を通して藝術の鬼を描いて永く読み継がれており，1912 年までに第 16 版を数えた由である．＊色刷りの口絵は富岡永洗による木版．

□ 『寶の藏』（學齢館，明治 25 年 7 月 2 日：1892）児①

＊解説者：塩田良平．＊少年文学は露伴の本領とまでは目されていなかったが，『雑寶藏（ぞうほう）経』に取材した教訓的な 15 篇を集めたこの寓話集は，仏教的因果因縁の運命観を反映させているだけに，露伴らしい著作と見られている．＊装幀：富岡永洗．

□ 『風流佛』（吉岡書籍店，明治 22 年 9 月 23 日：1889）明前/秀選

＊解説者：成瀬正勝 / 前田愛．＊その第一號が**尾崎紅葉**をデビューさせた〝新著百種〟叢書の第五號．前田によると，「至上の愛と芸道に精進する意力の葛藤」を描き，「西鶴調の文章の斬新さ」もあって，「数え年二十三歳の露伴を新進作家の座におしあげることになった」が，「明治二十五年ごろになると，同じく西鶴に学びながら「実」を主とする紅葉と，「想」を旨とする露伴という対比の図式」が定まったらしい．＊現行版の本文とは多少の異同も見られるとのことである．

□ 『幽祕記』（改造社，大正 14 年 6 月 20 日：1925）精選　〈函〉

＊解説者：篠田一士．＊沈黙の 10 年間を経たのちの大正 8 年（1919）に露伴が発表した「幽情記」と「運命」を合体させた中篇「運命」，それに同時期の 13 篇を加えた『幽祕記』は，〝紅露時代〟を牽引した露伴文学でも最高峰に目されている．＊「本文の刷りは悪く活字のもぐりが多い．」（作品解題）．

**小林 多喜二**（1903－33）：

□ 『オルグ』（戰旗社，昭和 6 年 7 月 18 日：1931）小林

＊解説者：手塚英孝．＊『**工場細胞**』の第二部として，製缶工場内に労働運動のための組織再建を謀るオルグの闘いを描く．単行本化に際しては雑誌『改造』に発表された時の伏せ字を起こし削除部分を大幅に復元させたため，刊行後直

ちに発禁処分を受けた.

□ 『蟹工船』（戰旗社，昭和４年９月 25 日：1929）昭和 新選/小林/SONY

＊解説者：小田切進 / 手塚英孝 / 川村湊. ＊〝日本プロレタリア作家叢書〟第二篇. 日本の Upton Sinclair（1878－1968）とも喩えられた多喜二が，蟹を缶詰加工するオホーツク海上の船で過酷な労働を強いられ搾取される作業員たちの団結と闘争を綿密に調査し，藝術的表現により描き出した中篇小説で，プロレタリア文学の昂揚期を招来させた記念碑的作品であった. 小林 の『解説』によると，帝国軍隊～財閥～国際関係～労働者への搾取が一点に集中する場として彼は蟹工船に辿り着いたらしい. いっぽう小田切は，「集団の中に個人が埋没し，人物が類型的に割りきられ，図式的に動かされているなど，その後の小林をもふくめて，日本プロレタリア文学が容易に克服できなかった弱点が…すでにはっきり現われている」と指摘する. 前年に雑誌『戰旗』に掲載された際の伏せ字や削除部分はこの初版本では起こされていた. ＊併載の**「一九二八年三月十五日」**の最終頁は，発売前に切り取られたという理由で，今回の複刻では複製されていない. ＊装幀：須山計一. 地下販売網で初版だけでも 15,000 部が売れたらしい. ＊翌昭和５年（1929）には改訂されるなど，戦前だけで７種の版が行われて，その都度伏せ字が増やされていったそうである. ＊**中国語訳**もあり，その複製が 小林 で付録にされている. ＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない.

□ 『工場細胞』（戰旗社，昭和５年７月４日：1930）小林

＊解説者：手塚英孝. ＊近代化された大工場に潜入して労働者を団結させるという地下運動を通して，1928 年の〝三・一五事件〟における共産党員の大量検挙以降に日本共産党が組織強化を目指した活動を描いた中篇.

□ 『小林多喜二書簡集』（ナウカ社，昭和 10 年８月１日：1935）小林 〈函〉

＊解説者：手塚英孝. ＊多喜二の全集は戦前ではナウカ社による３巻本（1935 年３～６月）のみであったが，本書はその第４巻目を意図されていて，1925 年３月～ 33 年１月の書簡を収録する.

□ 『小林多喜二隨筆集』（書物展望社，昭和 12 年６月 16 日：1937）小林

＊解説者：手塚英孝. ＊ナウカ社版全集に未収の評論や随想を小樽時代の友人

たちが編纂して，全集の第６巻目に位置付けられるべく刊行された．＊装幀は齋藤昌三で，1,000部が刷られたが，600部まで販売されたところで発禁にされた．

□ 『小林多喜二日記』（ナウカ社，昭和11年４月10日：1936）小林　〈函〉

＊解説者：手塚英孝．＊ナウカ社版全集の第５巻目に相当し，1926年５月26日～28年元旦の日記「折々帖」の他，書簡集補遺，全集刊行後に発見された小樽高等商業學校時代の短篇小説などを収録する．

□ 『一九二八年三月十五日』（戰旗社，昭和５年５月13日：1930）小林

＊解説者：手塚英孝．＊『**蟹工船**』併載作品の単行改訂版で，同じ叢書の第九篇．全国規模で共産党員が大量検挙された〝三・一五事件〟以降の特別高等警察による取り調べの実態を描いて，「多喜二のプロレタリア作家としての位置を確立した記念碑的作品」（内容見本）との評判で，海外でも戦前から露・英・**独**・仏語に翻訳されていた．＊岡本唐貴の装幀で3,000部が刷られ，伏せ字や削除を増やして用心していたけれども発禁にされた．

□ 『地區の人々』（改造社，昭和８年５月８日：1933）小林

＊解説者：手塚英孝．＊沈滞を続けていた小樽の労働者たちが戦時下で再び決起する様を描こうとしたが，絶筆となった．＊複刻に際しては，併載の「**沼尻村**」も含めて，伏せ字への書き込みが手書きのまま残されている．＊「表紙に改訂版とあるのは官権への対策と推定される．」（内容見本）．原本では装幀者名が表示されていたが，複刻に際して目次裏から抹消された由．

□ 『轉形期の人々』（改造社，昭和７年９月８日：1932）小林

＊解説者：手塚英孝．＊登場人物たちの小樽を舞台にした生活と闘いを通して，解放運動が直面していた1925～28年の日本の現状を3,000枚に描く積もりであったらしいが，序論的部分だけで中断した．

□ 『黨生活者』（大阪：民衆書房，昭和22年１月15日：1947）小林

＊解説者：手塚英孝．＊自身の体験に取材して，軍需工場での共産党支部による闘いを描くなかで，「日本ではじめて共産主義的人間像の典型を造形した」が，完結には至れなかった．彼が死亡した1933年に「轉換時代」として『中央公論』の４月号と５月号に分載されたが，758箇所で14,059字が削除ないし伏せ字にされた．＊この書は彼の代表的作品として，無削除のテキストが紙型の状態に

して戦後まで保存されてきた.

□ 『沼尻村』（日本プロレタリア作家同盟出版部,
昭和７年８月 30 日：1932） 小林

＊解説者：手塚英孝. ＊「帝国主義戦争と右翼社会民主主義者にたいする労働者と貧農の闘い」を描いて，反戦色を濃厚にし始めた作品とされる.

□ 『東倶知安行』（改造社，昭和６年３月 16 日：1931） 小林

＊解説者：手塚英孝. ＊最初の男子普通選挙（1928）に運動員として関わった際の体験記. ６短篇と戯曲１篇を収録する. ＊ゆまに書房が〝新鋭文学叢書〟（全 28 点セット価 168,000 円）のうちとして 1998 年５月 22 日に複製している.

□ 『日和見主義に對する闘争』（日本プロレタリア文化聯盟出版部,
昭和８年４月 25 日：1933） 小林

＊解説者：手塚英孝. ＊「文化活動の革命的躍進のために，身を挺して日和見主義に對する闘争，右翼的偏向に向つて大衆の注意喚起した」（序）という 12 篇の評論集が，彼のための労農祭を記念して刊行されたが，発禁にされた.

□ 『不在地主』（日本評論社，昭和５年１月 20 日：1930） 小林

＊解説者：手塚英孝. ＊石狩川の不在地主と小作農の争議に取材した中篇で，ノート稿「**防雪林**」から書き改められて 1929 年に脱稿していたが，『中央公論』は 11 月号に掲載する際に第 12 ～ 16 章 50 枚分を無断でカットしてしまったので，その 50 枚が『戦旗』の翌月号に「戦い」として掲載された. 本書がその復元版になる. 彼はこれを勤務時間中に執筆したために，1929 年 11 月に北海道拓殖銀行小樽支店より解雇された.

□ 『防雪林』（日本民主主義文化連盟，昭和 23 年８月１日：1948） 小林

＊解説者：手塚英孝. ＊石狩川河畔の開拓農民の生活と小作争議に取材して昭和２年（1927）から翌年に執筆され，『**不在地主**』の原型となった 183 枚の中篇小説. 戦後になってから，日本評論社が全集（1948 ～ 51）を準備していた 1947 年にノート稿で発見された. ＊本書の巻末には手塚本人が日本評論社版のために執筆した「解題」が添えられている.

□ 付録１：追悼号 雑誌・新聞 小林[付]

＊解説者：手塚英孝. ＊小林多喜二追悼号を集めて，雑誌では『プロレタリア

演劇』（1933年3月18日），『プロレタリア文化』（3月20日），『働く婦人』（4月1日），『プロレタリア文学』（5月1日），新聞では『赤旗』（1933年2月28日，3月12日，20日），『大衆の友』（3月10日），『演劇新聞』（3月11日），『無産青年』（3月13日），『文学新聞』（3月15日）をそれぞれ複製する．

□　付録2：海外版2点 小林付

＊解説者：手塚英孝．＊「世界各国で翻訳紹介され，20余種もの外国版が出版されている」（内容見本）なかで，潘念之による中国語訳『**蟹工船**』（1930年4月15日）と，國崎定洞（ていどう）が『**一九二八年三月十五日**』から独語に抄訳した *Der 15. März 1928*（1931）を複製する．

**小林 多喜二・立野（たての） 信之**（1903－71）：

□　『プロレタリア文學論』（天人社，昭和6年3月21日：1931）小林

＊解説者：手塚英孝．＊「「戦旗」が年12回発禁にされたとしても，プロレタリア芸術は決して衰えも，無くもならない」（内容見本）と宣して，小林と立野が各9篇を寄稿した評論集．

**小林 秀雄**（1902－83）：

□　『文藝評論』（白水社，昭和6年7月10日：1931）昭和 秀選　〈函〉

＊解説者：小笠原克．＊第一評論集で，彼は「プロレタリア文学批判によって，藝術派最大のイデオローグ」とか「文学批評家であるといふよりも，批評的文芸家である」と当時は見られていたらしい．＊テキストが初出誌～本書～三種の全集を経た間でかなり異なるとの指摘もある．＊1948年6月15日に表紙のデザインを異にした復刻版が日産書房より出版（200円）されていた．

**西條 八十**（1892－1970）：

□　『鸚鵡（おうむ）と時計』（赤い鳥社，大正10年1月30日：1921）赤い鳥

＊解説者：木俣修．＊子供向けだからといって表現の平易化に走れば純粋な藝術ではなくなってしまうとの信念に基づいて，「かなりや」を始めとする童謡59篇を集める．

□ 『西條八十童謡全集』（新潮社，大正 13 年 5 月 25 日：1924）児① 〈ジ〉

＊解説者：藤田圭雄（たまお）．＊後書きによると，『**赤い鳥**』が創刊された 1918 年いらい西條は「詩としての香気」を保ち「幼き者等の愛誦に適する」童謡を寄稿してきた．そのほとんどである 140 篇を収録する本書は，「加藤まさをの墨一色の口絵が一丁別刷で入っているだけ」の温和しい装幀に造られて，「大人のための記録的作品集」としての趣きを醸している．

□ 『砂金』（尚文堂書店，大正 8 年 6 月 28 日：1919）石楠

＊解説者：吉田精一．＊『日本近代文学図録』（1964）は，この第一詩集が「華麗な語彙，甘美な感傷，優雅な格調に富み，多種多様な幻想の世界を展開した」（p. 275）と紹介する．吉田も，「抒情詩人，童謡詩人としての西条八十の名声を確固不動のものとするものは，黄金色の絢爛に輝やく，華麗な詞句と浪漫的な奇想をちりばめた，一巻の『砂金』に如くものはないであろう」と，詩風と造本の相乗効果に注目する．＊自費出版ながら，装幀は中学時代の友人野口柾夫で，表紙がオリーブ色の羊皮紙に金箔押し，本文はアート紙，天金仕上げと，贅が尽くされた造本であった．＊みえ書房（京都）が 1949 年 1 月 20 日に内容を多少入れ替えて再刊したが，物資難のなかで初版の面影を辿ろうと痛々しいまでの努力が払われていた．＊日本図書センターが 2004 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**斎藤 茂吉**（1882－1953）： 旧姓守谷．

□ 『赤光』（東雲堂書店，大正 2 年 10 月 15 日：1913）明後 新選/山茶 〈ジ〉

＊解説者：木俣修 / 本林勝夫．＊〝アララギ叢書〟の第二編として，師である**伊藤左千夫**が死去した 1913 年頃まで茂吉が詠んできた 834 首を，初期に薄く，『アララギ』を受け継いだ明治 44 年（1911）以降に厚い配分で逆年代順に並べて，彼の 17 冊の歌集の最初となった．『日本近代文学図録』（1964）によると，「万葉調の中の鋭く近代的な官能や情感を摂取し，頽唐的な風潮に接近しながら強烈な生命の真実を示現して特異な近代歌風を樹立している」（p. 277）．更には，「『赤光』に見る主情的傾向は…一貫する特色でもあった．」（本林）由である．＊装幀は茂吉本人．口絵と挿絵は**木下杢太郎**と平福百穂（ひゃくすい）で，木版は井上

凡骨による．＊760 首に絞り込み年代順配列にした『改選 赤光』の第三版（春陽堂，1925）を茂吉は定本と認定し，そのテキストが流布されたが，本林は，「初版本とは別の歌集」であり「おのずから別の取り扱いを必要とする」と指摘している．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

**齋藤 緑雨**（1867－1904）：　本名賢（まさる）．筆名眞猿，正直正太夫，登仙坊など．

□ 『かくれんぼ』（春陽堂，明治 24 年 7 月 5 日：1891）明前　〈和〉

＊解説者：吉田精一．＊緑雨は，晩年の**一葉**に才能を観取して『校訂一葉全集』（博文館，1897）を実現させた文筆家．＊本書は春陽堂〝文學世界〟の第六巻で，花柳界の誘引力をエスプリ混じりに描いた 13 丁 26 頁の短篇．「少なくとも，三四千の金を空に棄た奴でなくてはわからぬ」（唾玉（だぎょく）集）類いの機微を持ち味としたために，一般読者には馴染み難いにしても，**永井荷風**や**伊藤整**のような通人は緑雨を愛読したそうである．＊各丁の袋に挿み込まれた補強用間紙（あいし）まで明前は忠実に複製している．＊参考：南伸坊（編）『明治の文学 第 15 巻：斎藤緑雨』筑摩書房 2002 年 7 月 25 日．変体仮名を読み解く援けになるし，緑雨の談話（pp. 372－94）を伊藤青々園（編）『唾玉集』（1906）から転載している．

**酒井 朝彦**（1894－1969）：　本名源一．

□ 『木馬のゆめ』（金蘭社，昭和 5 年 1 月 10 日：1930）児①　〈函〉

＊解説者：関英雄．＊〝きんらんゑばなし叢書〟第三編．「**小川未明**に始まる大正，昭和初期の散文詩的な短篇童話の流れ」を汲み，その初期には空想童話を書き，中期からは趣きを変えて郷土童話へ移っていった．＊挿絵は**初山滋**で，初版は 500 部？＊〝わくわく！名作童話館〟（日本図書センター，2006）での復刻（2,200 円＋税）は文字遣いや装幀が現代化されている．

**坂口 安吾**（1906－55）：　本名炳五（へいご）．

□ 『日本文化私觀』（文體社，昭和 18 年 12 月 5 日：1943）昭和　〈ジ〉

＊解説者：奥野健男．＊**太宰治**，織田作之助，石川淳とともに〝無頼派〟と呼ばれただけに，この評論集では「死んだ伝統」（例えば寺社仏閣や家族制度）を

排し，「ヴァイタリティのある必要」（例えば，駆逐艦とドライアイス工場と刑務所）の美を強調する．

**佐々木 邦**（1883－1964）[9]：

□ 『苦心の學友』（大日本雄辯會講談社，昭和 5 年 3 月 10 日：1930）児② 〈函〉

＊解説者：十和田操．＊「昭和の初めごろまでの世間のおもしろい風物，風景や考え」を窺わせてくれる少年少女向けユーモア小説．しかし，英文学者でもあった佐々木が童話を邦訳はしても創作することは無かった．

**佐々木 信綱**（1872－1963）：

□ 『おもひ草』（博文舘，明治 36 年 10 月 30 日：1903）紫陽 〈ジ〉

＊解説者：新間進一．＊歌誌『心の華』を主宰して歌壇に知られた信綱が過去 10 年に詠んだ 550 首を集めた第一歌集．解説者は，「種々の素材を扱い，浪漫的・主情的な歌いぶり」で，「人生訓めいた感懐を吐露した唄が多い」こと，本書が「明治の代表的な新派歌集としての史的意義」を併せ持つことを指摘する．＊〝佐々木〟であった姓を，明治 36 年の中国旅行を機に〝佐佐木〟と改めたらしい．何しろ，ジャケット・題扉・奥付は〝おもひ草〟ながら，表紙と依田學海の序文では〝思草〟，源高湛（**森鷗外**）筆の序文では〝おもひ艸〟と書名の表記がバラバラという大らかさであったから，佐々木でも佐佐木でも構わないのであろう．＊長原止水の装幀により，当時から「空前の美本」と称えられた．中国へ本書を携えるため，奥付の発行日より前に出来上がっていた．

**佐藤 春夫**（1892－1964）：

□ 『蝗の大旅行』（改造社，大正 15 年 9 月 25 日：1926）児① 児選 〈函〉

＊解説者：岡田純也．＊彼の童心主義的童話には傾向が三つあり，幼少時代の体験に基づくこと，日常生活に取材すること，幻想の世界に入ることであった

[9] 本誌第 47 巻 4 号に筆者は「英語教師としての佐々木邦」を投稿したので参照されたい．序でに，その脚注 16 に「明治学院」とあるのを「青山学院中等学部」と訂正したい．

が，本作では写実のまさった現在形の文体で「もっとも子どもの世界に接近した世界」が描かれたとされる．＊装幀・扉絵：冨澤有爲男（ういお）．挿絵：島田訥郎（とつろう）．

□『殉情詩集』（新潮社，大正 10 年 7 月 12 日：1921）大正 新選 山茶 〈ジ〉

＊解説者：**井上靖**．＊膨大で多岐にわたる詩業のなかでも，甘美にして哀切な 23 篇を収めた第一詩集．本書の「気品と格調をもったきよらかさにこそ，詩人佐藤春夫の真の本領を見るべきであろう」と，井上は評している．＊自装で，口絵の自画像は春夫が二科展に出品したもの．紙装の方ではなく絹装本を複製し，ジャケットとして書名・著者名・自序の一部を印刷したパラフィン紙が蔽せられている．＊ 1966 年 11 月 30 日に大和書房が冬至書房の纂修で，島田謹二筆の別冊解説（8 頁）を添え，パラフィン紙も複製した〝初版・復原版〟が 1,000 部販売（1,000 円）された．＊日本図書センターが 2003 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

□『病める薔薇』（天佑社，大正 7 年 11 月 28 日：1918）大正 精選 〈函〉

＊解説者：高田瑞穂．＊心象風景の表白，心理描写，メルヘン調の三傾向を示す 9 篇が収められたこの第一短篇集をもって，27 歳の春夫は大正後半期の文壇に躍り出ることになって，本書がそのまま彼の代表作となった．函には〝薔薇（さうび）〟とルビが振られている．

**里見 弴**（1888－1983）：　本名山内英夫．号怡吾庵．**有島武郎**の弟．

□『安城家（あんじょう）の兄弟』（昭和 2 ～ 5 年：1927 ～ 30；ほるぷ出版，昭和 47 年 12 月 1 日：1972）自選 〈函〉

＊解説者：本人（巻末）・小田切進・有島暁子・泉名月．＊**有島武郎**，画家の有島生馬，里見の三兄弟を主人公にして，「血のにじむ切迫感，そんなものの點在でも，ちよつと變わつた一形體」（自筆解説）を描いた私小説的長篇．『日本近代文学図録』（1964）は，「自己の身辺におこった出来事を，「まごころ哲学」という独特のモラルでもって処理していく物語」（p. 264）と紹介する．＊昭和 2 年～ 5 年に雑誌掲載後，翌 6 年（1931）に中央公論社より単行本化され，1947 年に好学社から 2 冊本で，1953 年になって岩波文庫で 3 冊本に再刊され

てきたが，ほるぷ社が再刊するにあたり里見本人が全体にわたって校訂しており，次兄の生馬が題字と装幀と挿画とを担当している．

□ 『善心悪心』（春陽堂，大正 5 年 11 月 15 日：1916）大正 〈函〉

＊解説者：野口冨士男．＊何事も「まごころ哲学」を以て成就できるという信念が表明された一連の私小説的短篇集で，〝昌造もの〟と呼ばれている．＊次兄生馬の旧友であった**志賀直哉**からの感化も大きかったが，所収の連作でモデルとして利用したために，志賀とは疎遠になってしまう．

**三遊亭 圓朝**（1839－1900）： 本名出渕（いづぶち）次郎吉．

□ 『牡丹燈籠』13 冊：第壹編～第拾參編

（東京稗史出版社，明治 17 年 7 月～ 12 月：1884）明前 〈和〉

＊解説者：越智治雄．＊幕末の文化を継承した造話力抜群の噺家が 20 歳代に拵えた怪談人情噺で，歌舞伎でも六代目尾上菊五郎によって演じられ，**二葉亭**に『**浮雲**』（1887 ～ 88）を書かせて言文一致体の拡散にも貢献した．当時，その速記録が毎土曜日に一冊ずつ頒布されて，「明治の新文学誕生寸前の低調な小説の代役を果たす」ことになった，と興津要は『日本近代文学大事典』の「三遊亭円朝」項（1977）で付言している．＊全 13 冊が揃っていれば，版元が預かって序文と口絵を付けて無償で製本したらしい．

**志賀 直哉**（1883－1971）：

□ 『暗夜行路』（座右寶刊行會，昭和 18 年 11 月 19 日：1943）

昭和 秀選 〈函・ジ〉

＊解説者：安岡章太郎．＊前篇が大正 15 年（1926）に新潮社から出されたままになっていたが，改造社の『志賀直哉全集』を機に第 8 巻（1937）のために後篇が執筆されて，直哉にとっての唯一の長篇小説に仕上がり，また近代日本文学屈指の名作ともされた．昭和 13 年（1938）に前篇と後篇が岩波文庫に編入されたので，今回複製されたのは新潮社版（1926）ではなく初の前後一冊本で，それは 1,000 部限定の豪華本であった．＊挿絵画家に，梅原龍三郎，小林古径，坂本繁二郎，**武者小路實篤**，安井曾太郎が並ぶ．装幀は橋本基（もとい）のようで

ある.[10] ＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟(1985) は複製本ではない.

□ 『大津順吉』（新潮社，大正６年６月７日：1917）新選/SONY

＊解説者：稲垣達郎 / 吉村昭. ＊『留女』に次ぐ直哉の第二創作集で，「清兵衛と瓢箪」を含む７短篇を収める．その後の第三創作集である「『夜の光』とともに，初期から中期へかけての志賀文学を代表するものであると同時に，大正文学の有力な道標ででもある」と，稲垣は位置付けている．＊後に大正文壇の重鎮となる作家たちや昭和文学を幕開けする若手たちを発掘してきた〝新進作家叢書〟の（４）として刊行された.

□ 『白樺のころ』（1910 ～ 26；ほるぷ出版，昭和 47 年 12 月１日：1972）

自選 〈函〉

＊解説者：谷川徹三（巻末）・小田切進・紅野敏郎・安場貴美子. ＊明治～大正～昭和を通して〝小説の神様〟であった志賀が『白樺』に発表してきた作品全 29 篇が集められたのは本書においてが最初であった. ＊志賀は「解説」の執筆が予定されていた前年に死去したので，代わって谷川徹三が志賀文学の精髄について語っている．康子未亡人が題字を揮毫し，子息の直吉が装幀し，友人であった画家の杉本健吉が挿絵で協力した.

□ 『夜の光』（新潮社，大正７年１月 16 日：1918）大正 精選 珠⑪

＊解説者：紅野敏郎. ＊初期の客観小説から中期の私小説までの多様な傾向を示す 14 短篇すなわち「この時期までの，志賀文学のすべて」を集める．＊装幀と題字は，英国人陶芸家で白樺村（我孫子）の住人であった Bernard Leach（1887－1979）による．増刷を重ねているうちに活字が潰れてしまったらしく，コンディションの良い初刷本は大変稀少であるらしい.

□ 『留女』（洛陽堂，大正２年１月１日：1913）特選/珠⑪ 〈函〉

＊解説者：紅野敏郎 / 稲垣達郎. ＊初期の代表作を収めた第一短篇集で，実態は自費出版であった．留女は直哉の祖母の名で，献辞の草案にも「余を毒する迄に慈み玉へる祖母の膝下に」とあったことを稲垣は明かす．また紅野は，親

[10]『装丁』（1998）所収の志賀による「装幀に関するノート」より．それでいて志賀は，書物は内容本位で装幀のような「従なものを，独立した一つの工芸として過度にのさばらされては困る」と，苦言を呈している.

族に関わる部分と白樺派に関わる部分とが本書において同比重に保たれていると，献辞や題簽から推定している．＊収録の10短篇ちゅう，「祖母の爲に」(1907)，**「老人」**（1911），「クローディアスの日記」（1912）など8篇が『白樺』に発表された作品であった．＊なお本書では，官憲を憚って「濁つた頭」（1911）の一部が削除されており，初出時の本文が復原されたのは文藝春秋新社版『濁つた頭』（1947）以降であった．

□ 「老人」（自筆原稿）大正付

＊解説者：遠藤祐．＊「老を意識させられることの不快さ，淋しさと，逆に老年のおちついた心境を求める心との葛藤を描いた心理小説」の原稿で，27字16行の用紙が全部で6枚．朱と墨書きは編集者によるものらしい．＊明治44年（1911）に『白樺』に発表されたこの短篇は『**留女**』，『**夜の光**』，『**白樺のころ**』に繰り返し掲載されてきた．

**島木 赤彦**（1876－1926）：本名塚原俊彦，入婿後久保田．号伏籠，山百合，柿の村人．

□ 『赤彦童謡集』（古今書院，大正11年4月12日：1922）児②　〈函〉

＊解説者：藤田圭雄（たまお）．＊アララギ派の中堅であったが，雑誌『童話』からの依頼が切っ掛けとなって童謡も書き始めた．44篇を収録する際に彼は改筆を施しており，例えば「雲」なぞは全体が書き直されたらしい．＊装幀：森田恒友．扉と口絵：平福百穂（ひゃくすい）．挿画：川上四郎．＊1947年12月25日に，余白を詰めた簡素な造本ながらも良心的な復元版（45円）が豊橋の第一書店から出された．

□ 『氷魚（ひお）』（岩波書店，大正9年6月15日：1920）大正　〈函〉

＊解説者：久保田正文．＊『アララギ』の編集発行人を引き受け，**斎藤茂吉**が謂うところの「日本歌壇の主潮流」にまで該誌を成長させた赤彦が，大正4年（1915）～9年に詠んだ短歌を収める第三歌集．＊稀覯本に属し，初版本は岩波書店にも所蔵されていないらしい．

**島木 赤彦・中村 憲吉**（1889－1934）：

□ 『馬鈴薯の花』（東雲堂書店，大正2年7月1日：1913）連翹　〈ジ〉

＊解説者：近藤芳美．＊〝アララギ叢書〟第一編．**伊藤左千夫**が主宰したアラ

ラギ派の古典的歌風に対して近代感覚を打ち出した新進の門人二人による合著であり第一歌集．前半が久保田柿人（赤彦）の 271 首，後半が憲吉による 335 首を収める．両作品集冒頭の仏像画は平福百穂（ひゃくすい）によるが，純白の表紙に咲く可憐な花も百穂によるものであろうか．

**島崎 藤村**（1872－1943）：　本名春樹．

□ 『千曲川スケッチ』（佐久良書房，大正元年 12 月 20 日：1912）秀選 〈ジ〉

＊解説者：三好行雄．＊明治 32 年（1899）から英語および国語教師として小諸（長野県）に一家を構えた藤村は，『**落梅集**』以後に「抒情詩という表現様式自体の可能性に疑問」を感じるようになって，それならば散文に習熟しようと，「見たものを正確に記録する〈写生〉の方法」で千曲川流域の自然と生活をスケッチするようになった．明治 38 年に東京へ戻ってから，原稿を読者向きに改めて雑誌『中学世界』に大正元年（1912）まで 12 回に分けて発表した．本書は藤村の小諸時代を代表する写生文集として，65 の短文を季節の移り変わりに合わせて 12 章に配している．＊装幀は有島生馬．

□ 『破戒』（私家版，明治 39 年 3 月 25 日：1906）明後 新選 珠④/SONY

＊解説者：瀬沼茂樹 / 井出孫六．＊〝緑蔭叢書〟第壹篇．詩文集『**落梅集**』後散文家に転じた藤村は，明治 38 年に『破戒』の原稿を携えて小諸から東京に戻った．本作により彼は，「自然とたたかい，特異な人間素質の形成される経緯」を描いて「自然派として近代小説の本道」を歩んだ．また『日本近代文学図録』（1964）は，「主人公に作者の切実な生の願望を託したところに，この作品の近代文学としての位置がある」（p. 250）としている．＊自装で，口絵は鏑木清方による．初版は 1,500 部であったが，好評につき 10 日後に 1,500 部が刷り増された．ジャケット有無は未確認らしい．＊昭和 4 年（1929）を最後に自主的に絶版にされ，昭和 14 年に水平社の要請を承けて部落問題と労働問題に配慮した〝藤村文庫〟版に改められた．初版の本文が復原されたのは 1953 年 8 月 25 日で，筑摩書房の『現代日本文學全集 第 8 巻：島崎藤村集』からであった．[11] ＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

[11] 同巻の月報に，「編集後記」（p. 8）と，初版を初めて読んだ野間宏の感想（pp. 2－3）も．

□ 『春』（私家版，明治 41 年 10 月 18 日：1908）精選

＊解説者：三好行雄．＊客観小説たる『**破戒**』を第壹篇とした〝緑陰叢書〟の第貳篇で登場したのが『春』で，藤村にとっては初の自伝的長篇小説であった．明治 26 年（1893）夏～ 29 年夏における**北村透谷**たち『文學界』同人との交友を通して，「自我にめざめた青年たちの生の欲求と挫折」（内容見本）がほぼそのままに再現される．したがって場人物にはモデルがおり，岸本≒藤村，青木≒透谷，市川≒平田禿木，管≒戸川秋骨，足立≒馬場孤蝶，福富≒**上田敏**，堤≒**樋口一葉**と読み替えられる．＊口絵と挿画は和田英作．

□ 『ふるさと』（實業之日本社，大正 9 年 12 月 5 日：1920）児① 児選

＊解説者：瀬沼茂樹．＊副題である「少年の讀本」を意図して収録された 70 篇では，郷土である信州馬籠（現岐阜県）における四季の「風物詩的な詩情と自然や人事への正確な洞察が基本となり，ようやく教訓調から脱している」と瀬沼は解説する．＊挿画は**竹久夢二**による．

□ 『眼鏡』（實業之日本社，大正 2 年 2 月 18 日：1913）児② 〈ジ〉

＊解説者：瀬沼茂樹．＊日本を縦貫する旅で青年の眼鏡が旅先の自然や風俗を語るという設定．登場人物にはモデルがあって，島田≒星野天知，中西≒馬場孤蝶，林≒**北村透谷**，芳川≒戸川秋骨，藤森≒平田禿木の対応になり，謂わば『**春**』の少年向けヴァージョンであった．＊〝愛子（あいし）叢書〟の第一篇であったが，生前の全集・選集類には収録されなかったらしい．

□ 「夜明け前」（自筆原稿）昭和付 新選付

＊解説者：瀬沼茂樹．＊『夜明け前』は維新前後の木曾路に取材し，藤村の歴史小説では最長の作品．昭和 4 年（1929）から 10 年まで『中央公論』に連載され，7 年 1 月 20 日に『夜明け前 第一部』が新潮社から刊行されていた．その後 10 年 11 月 25 日に『第二部』が〝藤村文庫〟（新潮社）の第二篇として刊行された．＊昭和 および 新選 の第 4 刷（1970 年 10 月 20 日）までの付録で複製されたのは第一部「序の（二）」冒頭までの 5 枚の原稿で，〝藤村文庫〟第一篇（第二篇と同日刊行）の pp. 2－5 に相当する．＊要注意：ほるぷ出版は全 2 冊 1,500 頁の新潮社版を複製しておらず，同社による〝日本の文学〟（1985）ちゅうの『夜明け前』は複製された初版本ではない．

□ 『落梅集』（春陽堂，明治 34 年 8 月 25 日：1901）特選/石楠 珠④　〈ジ〉

＊解説者：瀬沼茂樹 / 三好行雄．＊明治女学校での教え子と結婚し，信州小諸に英語教師として赴任し，「自己を旅人として認識できる場所」（三好）を見出した明治 32 年 4 月～翌年 6 月に詠んだ「小諸なる古城のほとり」や「椰子の實」を含む詩 36 篇に，散文 10 篇を併せた第四詩文集．瀬沼によると，作詩中の心境というよりも「小諸生活とつながる，仮構された藤村の詩美の世界」が反映されているそうである．しかし藤村は，本書刊行の翌年から散文家に転じることになった．＊装幀・口絵・挿画：中村不折．帯様の袋に入れられている．

□ 『若菜集』（春陽堂，明治 30 年 8 月 29 日：1897）

明前 新選 山茶/珠④　〈ジ〉

＊解説者：瀬沼茂樹 / 猪野謙二．＊明治 30 年の春までの半年間に発表され，「浪漫詩人藤村の誕生を告げる」にふさわしい詩 51 篇を収録した第一詩集．『近代文学名作事典』（1967）は，**外山**等の「『**新体詩抄**』によって誕生した近代詩は，［鷗外］の「**於母影**」の訳詩において芸術の域に達し，『若菜集』に至ってはじめて，芸術としての創作詩となった」と展望している．＊中村不折による装幀，口絵 1 葉と挿画 24 葉は収録作品の効果を増幅する．[12] ＊八木福次郎（2007）はかつて「白紙の和紙袋入り」（p. 65）になった初版本目撃しており，稲垣達郎は袋を「追加複製できたことをよろこびたい」（p. 176）と 石楠 の『解説』で追記している．しかし 山茶 は重版されなかったようで，実際に〝袋〟が追加されたのは 新選 の第 23 刷（第二版初刷，1982 年 12 月 1 日）からであった．＊日本図書センターが 2002 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

[12] 『装丁』（1998）所収の藤村による「装釘に就いて：『春』と『家』及び其他」に拠る．

**島村 抱月**（1871－1918）：　旧姓佐々山，本名瀧太郎.

□ 『少年文庫』壹之巻（金尾文淵堂，明治 39 年 11 月 10 日：1906）

児② 〈函・挿〉

＊解説者：続橋(つづきはし)達雄．＊「説話的な世界を脱した美しくロマンティックな児童文学の誕生を期待」した早稲田大學の島村教授が編集名義人となり，**小川未明**が編集の実務を担い，**竹久夢二**が挿画を描き小品を執筆したりもしたが，市場に食い込めぬまま初号で潰れてしまった．そのために幻の雑誌と見られてきたが，小川と竹久の文壇入りに貢献した．＊明治 22 年創刊の投書誌『少年文庫』（同 28 年に『文庫』と改題）と混同しかねない.

**釋(しゃくの) 超空(ちょうくう)**（1887－1953）：　本名折口信夫(しのぶ).

□ 『海やまのあひだ』（改造社，大正 14 年 5 月 30 日：1925）大正　〈函〉

＊解説者：山本健吉．＊「歌の精髄を，あるいは人生のかなしみを，万葉の人麿・黒人・赤人以下の羈旅歌によって学ん」だと伝えられる折口が，改造社から〝自選歌集叢書〟への執筆を依頼されて，念入りに編輯した実質的な第一歌集．『日本近代文学図録』（1964）によると，折口は「「アララギ」同人であったが，写生流儀を守らず，民俗学者としての思考や市井人としての人間的な息吹をこめた特異な歌風を樹てた」（p. 278）歌人と評されている．＊装幀：森田恒友．＊参考：「自歌自註」『折口信夫全集』第 26 巻 中央公論社 1967 年 12 月 25 日 pp. 1－242.

□ 『古代感愛(かんない)集』（私家版，昭和 20 年 3 月：1945）石楠　〈函〉

＊解説者：加藤守雄．＊青磁社の要請で，戦前に詠んだ五七調を基調とした長歌や劇詩を 53 篇集めたが，製本直前に空襲で焼失してしまった．幸いにも仮綴じされた 20 ～ 30 部が残されたので，折口が手作業で古裂を貼りながら製本し，**柳田國男**たち知人に配った．私家版のため奥付は無い．＊ 1973 年 9 月には折口博士記念古代研究所が「歿後満二十年」記念に仮綴じ部分を製本・複刻したことがあった．＊今回の石楠では，焼失した 1945 年の本文に 1946 年の束見本から表紙を転用した複製であった．＊但し現実には，GHQ の検閲で戦時詠が引っ掛かりそうだとの懸念から，1946 年版は出版が見送られていた.

＊1947 年 3 月 25 日になって，引っ掛かりそうな 10 篇が新たな 9 篇と差し替えられて，52 篇の『古代感愛集』が自装で青磁社から公刊された．それが評価されて古代学者折口信夫は翌年秋に第一回藝術院賞を贈られ，歌人釋迢空としても知られるようになった．＊ 1952 年 5 月 30 日にも，「近代的な発想にもとづく詩篇」を除いて〝古代〟（日本人の心の源泉）の印象を鮮明にした 28 篇を収める角川書店版が再刊されており，それを折口は定本と認定した．＊参考：石内徹は『釈迢空『古代感愛集』注釈 全』（横浜：港の人，2009 年 3 月 30 日）で 700 頁を費やして角川版収録の全詩篇に注釈している．参考：二見和彦「ホンの話（2）」『日本古書通信』 第 39 巻 2 号　日本古書通信社　1974 年 2 月 15 日　p. 20.　参考：八木福次郎（1986）pp. 149－52.

□　『春のことぶれ』（梓書房，昭和 5 年 1 月 10 日：1930）連翹　〈函・挿〉

＊解説者：岡野弘彦．＊大正 14 年（1925）～昭和 4 年作の短歌 501 首を，弟子の鈴木金太郎がテーマ毎に再構成してまとめた第二歌集．短歌の形式と表記に工夫を凝らしてきた超空が「自分の短歌に対して自信とおちつきを得た時期の歌集で…五つの歌集の中では，最も一貫した気分の感じられるもの」とされる．『日本近代文学図録』(1964)は,「市井における人間諸層の生活の様相を歌い，旅における民俗探求の眼にとらえた民俗生活を歌って特異な歌風を形成している」（p. 326）と紹介し，同様に岡野も「都会の市井人の生活をとらえて，そこに流れる新しい時代の論理を見出そうとした」と解説している．＊連翹では，表紙に早川孝太郎の仮面図が金箔押しされている．また，広告（4 頁）が別刷りで挿み込まれている．＊参考：「自歌自註」『折口信夫全集』 第 26 巻　中央公論社　1967 年 12 月 25 日　pp. 243－321.

**末廣 鐵腸**（てっちょう）（1849－96）：　本名重恭（しげやす）．号浩齋．

□　『雪中梅』上編・下編

（博文堂，明治 19 年 8 月 27 日，11 月 30 日：1886）特選

＊解説者：越智治雄．＊明治 173 年（西暦 2040 年）に設定された未来小説で,「雪中の寒梅になぞらえて民権運動の志士たちが称揚され」るという，鐵腸にとっての第一作．明治 10 年代に流行した政治小説の中でも，その写実性が**坪内逍**

**遙**の注目するところとなった作品.

**薄田 泣菫**（1877－1945）：　本名淳介.

□ 『白羊宮』（金尾文淵堂，明治 39 年 5 月 7 日：1906）明後/連翹　〈函〉

＊解説者：松村緑 / 久保田正文.　＊ Robert Browning の“Home-Thoughts, from Abroad”（1845）を想起させる「あゝ大和にしあらましかば」を含む 64 篇を収めた第五詩集で，文語による新律の定型詩を確立させることになった. **日夏耿之介**は「明治浪漫運動の古典趣味が凝集した象牙彫り」と激賞した由で，『日本近代文学図録』（1964）は「修辞には**「於母影」「海潮音」**や**有明**の影響を見ることができる」（p. 246）と教える．また久保田は，「古典的な和歌における典型的な美の三様式」のうちの自然詠と相聞を備えて「輓歌のジャンルがまったくみられないのが特徴的」と指摘する．＊結婚して生活のために随筆家に転向し，『茶話』（1916）や『艸木蟲魚（そうもくちゅうぎょ）』（1929）を残した．＊装幀・口絵：滿谷國四郎.

**鈴木 三重吉**（1882－1936）：

□ 『救護隊』（赤い鳥社，大正 10 年 11 月 25 日：1921）赤い鳥

＊解説者：木俣修.　＊「老博士」は故郷 Lichfield 近郊の Uttoxeter に佇む英国の文豪 Samuel Johnson（1709－84）の逸話で，米作家 Nathaniel Hawthorne の *Biographical Stories*（1842）が種本.「小年王」も Charles Dickens の *A Child's History of England*（1853）からというふうに，再話物 8 篇を集める.

＊三重吉には再録で題名を変更したり文章を書き換える習性があった.

□ 『古事記物語』上巻・下巻

（赤い鳥社，大正 9 年 11 月 20 日，12 月 20 日：1920）赤い鳥

＊解説者：木俣修.　＊〝**赤い鳥の本**〟を創刊すべく三重吉は，1918 年いらい雑誌『**赤い鳥**』に発表してきた 15 回分を転載して更に 3 篇を書き加えた．彼は創作童話以上に再話の手法に熱心であったから，『古事記』にしても全訳はせずに，ゆるい意味での口語訳にすれば〝物語〟として通用すると考えたらしい.

＊挿画：清水良雄.

□ 「古事記物語」（自筆原稿）赤い鳥付

＊解説者：木俣修．＊赤い鳥セットの第３刷（1980）で付録にされた．上述の『**古事記物語**』でなら，上巻の「女神の死」（pp. 21－36）の原稿（28 枚）を複製する．

□ 『湖水の女』（春陽堂，大正５年 12 月 21 日：1916）児① 児選

＊解説者：桑原三郎．＊雑誌『**赤い鳥**』を創刊した 1918 年以前の，三重吉にとっては最初の童話集．坊間の童話には「たゞ話しが話されてゐるといふのみで，いろいろの意味の下品なものが少なくない」ので，「平易な純な口語のみを選んで」（序），長女すゞに聞かせようと語られたものであった．英ウェールズ，伊，露に由来する再話物４篇が収められている．＊装幀・挿画：水島爾保布（におう）．

□ 『千代紙』（俳書堂，明治 40 年４月１日：1907）明後　〈挿〉

＊解説者：福田清人．＊三重吉にとっての第一短篇集で，繊細な感覚と叙情性を作風に作家としての地位を築いた．また『日本近代文学図録』（1964）によると，収録された３篇のうち「千鳥」が『**草枕**』に影響を与えたとの見方もあるらしい（p. 258）．＊宮内省官吏であった同じ漱門の松根東洋城の紹介で，侍従の入江為守（ためもり）が装幀した．参考：津田青楓（1974）．＊明後では，**漱石**が寄越した巻紙の書簡が石版刷りで複製され，挿み込まれているので要チェック．

**鈴木 三重吉（他）：**

□ 『赤い鳥 創刊號』（赤い鳥社，大正７年７月１日：1918）赤い鳥付

＊解説者：木俣修．＊三重吉，**白秋**はもちろんのこと，**藤村**，**芥川**，**鏡花**，**秋聲**たちによる〝創作童話〟を掲載する．『赤い鳥』は雑誌ではあるが，赤い鳥セットの第２刷（1977）に付録とされたので，このリストに記述した．＊日本近代文学館がその全 197 冊（1918 ～ 29 & 1931 ～ 36）を 1968 年に複製しており，創刊號を両複製で比べると表紙の枠模様が微妙に異なっているので，原本に刷り増しが何度かあったのであろう．

□ 『「赤い鳥」童謡』第壹集～第八集

（赤い鳥社，大正８年 10 月 18 日～ 14 年６月 23 日：1919 ～ 25）赤い鳥

＊解説者：木俣修．＊文学性を唱える三重吉の新しい童謡運動に沿って，**西條八十**や**北原白秋**たちが「詩集と画集と同時に曲譜集を兼ねたる日本最初の創始

的様式」（『解説』p. 75）を創出して，今日でも唄われている「かなりや」，「あわて床屋」，「赤い鳥小鳥」といった童謡を多く収める．＊詩は縦書きながら，楽譜が横書きであるために，５～６曲を収める 28 頁建ての紙装冊子は左開きに仕上げられている．＊第八集「弘田龍太郎作曲集 その一」をもって終刊になったので，赤い鳥のセットで全号が複製されたことになる．

**雪花 山人：**　立川文庫における山田阿鉄（おてつ）以下の執筆陣を総称した名称のひとつ．

□ 『猿飛佐助』（大阪：立川文明堂（たつかわ），大正３年２月 15 日：1914）児①

＊解説者：尾崎秀樹．＊大阪の創作集団が，速記録から起こされた従来の講談本を離れて，軽快な語り口の「書き講談」で 200 冊近くを量産していた．それは７色に分類されたクロス装に「天金・金箔押し・白題字の表紙が凝った」（内容見本）300 頁前後の文庫本であり，学童にも読めるように総ルビが施され，読み終われば３銭を添えて新刊と交換して貰えるという廉価設定で，〝立川文庫〟と愛称されて庶民に浸透した．＊今回複刻されたモスグリーン表紙の『猿飛佐助』では，「女を摘むなんて太い奴だ」といった章題を置くなどサービス精神が発揮されていて〝立川文庫〟らしい．＊ 1974 年９月 30 日に講談社が『復刻立川文庫傑作選』全 20 巻セット（20,000 円）で発売したうちに大正５年 12 月 20 日刷の『猿飛佐助』（小豆色表紙）が複製されている．新字体に組み直された再編集物や傑作集は度々再刊されてきたが，時代を下りながら無難な表現に浄化されていった．＊参考：足立巻一『立川文庫の英雄たち』文和書房 1980 年８月５日．　参考：池田蘭子『女紋（おんなもん）』河出書房新社 1960 年１月 30 日．

**千家 元麿**（1888－1948）：

□ 『自分は見た』（玄文社，大正７年５月 15 日：1918）山茶

＊解説者：紅野敏郎．＊「兄事した**武者小路実篤**よりも「白樺」本来のウブな初心を終始一貫して貫き通した」元麿による 1916 年冬以降の全詩作 97 篇を収めた第一詩集で，彼の「ひらめきの頂点」は「一瞬にしてものごとの真実を圧縮してつかむ直感的能力」において示されたと紅野は解説する．＊武者小路が序文を寄せ，岸田劉生が装幀を担った．＊ 1942 年 10 月 18 日に建設社が活字

を組み直して西暦を外したり皇紀に替えたりしたが，装幀に同じデザインを転用していたために裏表紙や見返しに〝1918〟が残ってしまっている．

**高橋 新吉**（1901－87）：

□ 『ダダイスト新吉の詩』（中央美術社，大正 12 年 2 月 15 日：1923）連翹〈ジ〉

＊解説者：清水康雄．＊評論家の辻潤が「現実にしゃぶりついて，現実そのものを喰ひ尽さうとする」76 篇を選び，跋も書き，**佐藤春夫**が序文を寄せる．当時の若い詩人たちを強く感化し日本の現代詩を興す契機となった歴史的詩集ながら，当の高橋には制作過程に全くタッチせず仕舞いだったのが悔まれたらしく，本書が解体的に読まれるよう読者に求めている．＊装幀は田口省吾．＊1970 年 9 月 30 日に名著刊行会より〝稀覯詩集復刻叢書〟（セット価 5 万円）のうちとして複製されている．＊日本図書センターが 2003 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**高濱 虚子**（1874－1959）：　旧姓池内，本名清．

□ 『虚子句集』（植竹書院，大正 4 年 10 月 24 日：1915）連翹　〈函〉

＊解説者：大野林火（りんか）．＊一時は小説に没頭していた虚子であったが，同門の**河東碧梧桐**（かわひがし）による十七字破戒や季題無用の新傾向俳句に対抗するため，大正 2 年頃から伝統的で余情を湛えた俳句を再び詠み始めた．そうしたなかから虚子自身が先ず選び，更に「情調本位の俳句を標榜」した渡邊水巴（すいは）が数十日を費やして 2,000 句に絞った句集．

□ 『鶏頭』（春陽堂，明治 41 年 1 月 1 日：1908）明後　〈ジ〉

＊解説者：福田清人．＊**子規**から受け継いだ『ホトトギス』に虚子が発表してきた 10 篇を集めた第一小説集で，「「ホトトギス」を舞台とした写生文より発展した小説は，自然主義と対立した文学運動として，注目すべき」存在でもあったと福田は解説する．＊**漱石**が 28 頁に及ぶ「序」を寄せており，口絵は石井柏亭によるものであった．

□ 『五百句』（改造社，昭和 12 年 6 月 17 日：1937）昭和　〈函〉

＊解説者：加藤楸邨（しゅうそん）．＊『ホトトギス』の通算 500 号を記念して，明治 24 年（1891）

頃～昭和 10 年（1935）の作品から自選した 500 句集．子規の生前および没後に**碧梧桐**と対立した明治，**子規**流の写生を推進した大正，虚子らしい「花鳥諷詠」に至った昭和，と三期にほぼ等分されている．＊各頁に原則 1 句を配したために頁数が嵩み，造本が堅牢で重厚な仕上がりになっている．

**高見 順**（1907－65）：

本名高間義雄→芳雄．**永井荷風**の従弟．日本近代文学館創設の功労者．

□ 『如何なる星の下に』（新潮社，昭和 15 年 4 月 27 日：1940）昭和 精選〈函〉

＊解説者：小田切進．＊書名は**高山樗牛**の「如何なる星の下に生まれけむ，われや世にも心よわき者なるかな」に由来する．戦記文学が幅を利かせる時局にあって，藝術の荒廃と対峙するかのように，高見は浅草の風俗を背景に「心よわき者の孤独なエゴを韜晦の姿勢で表出」（内容見本）して，第四回新潮社文藝賞の候補作品にも選ばれた．＊三雲祥之助が装幀および挿絵を担当．＊要注意：ほるぷ出版の〝日本の文学〟（1985）は複製本ではない．

□ 『故舊忘れ得べき』（人民社，昭和 11 年 10 月 20 日：1936）特選 〈函〉

＊解説者：澁川驍（ぎょう）．＊高見には学生時代に労働組合運動に関わって検挙された過去があった．『近代文学名作事典』（1967）によると，「政治運動から絶縁することを誓って，…このことが，彼に思想的な苦悩を与え，彼の気持ちをデカダン的にした」らしい．そうした体験を踏まえ，当時の知識人の精神状況を談話風ながらも饒舌的な手法で文学的個性に昇華させて，第一回芥川賞の候補にもなった長篇．彼の前期に属する代表作であり，題名は「蛍の光」の旋律で唄われている Robert Burns（1759－96）の詩“Auld Lang Syne”ちゅうの一節．

**高村 光太郎**（1883－1956）：

本名光（みつ）太郎．号篁砕雨（たかむらさいう）．

□ 『道程』（抒情詩社，大正 3 年 10 月 25 日：1914）明後 新選 山茶 〈ジ〉

＊解説者：北川太一．＊明治 43 年（1910）以降に執筆された 76 篇を，「智恵子との結婚を人生の一つのしめくくりとして出版」（内容見本）した第一詩集であり，近代詩における屈指の名詩集とされている．北川によると，「自らの生の責任によって問いかけ，その道程を造型し得た最初の詩集」になるらしい．

＊自費出版で，装幀は内藤鋲策（しんさく）．＊装幀を簡素にした復元版が1947年6月15に札幌青磁社から出版されたが，活字やレイアウトは若干異なるし，「失はれたるモナ・リザ」への付言「わが愛せし某樓の女を我假にモナ・リザと名けたりき」は削除されている．＊日本図書センターが1999年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

**高山 樗牛**（1871－1902）：　旧姓斎藤，本名林次郎．号高斎林良（読み方不明）など．

□　『瀧口入道』（春陽堂，明治28年9月20日：1895）明前

＊解説者：成瀬正勝．＊『平家物語』に取材した歴史小説で，讀賣新聞社の懸賞に応募して二等で当選した．成瀬は，樗牛の「美的生活論は，ロマンティックな個人主義の道を開き，封建的な旧来の道徳秩序からの解放を願っていた同時代の青年たちの人間形成に強く作用」することになったと解説する．＊和洋折衷の装幀でリボンで綴じられている．

**瀧井 孝作**（1894－1984）：　俳号折柴（おりしば）→折柴（せっさい）．

□　『折柴句集』（横濱：やぽんな書房，昭和6年8月5日：1931）紫陽　〈函〉

＊解説者：保昌正夫．＊**河東碧梧桐**に師事して〝せっさい〟の読みを貰って以降の，大正3（1914）～昭和4年に詠んだ577句を収める．保昌は，碧梧桐が主宰した自由律俳句誌『海紅』を併せ読みながら，「「言葉がぎこちなく」とも，「主観」の張った，――根づいた作句を折柴は心がけたのだ」と解説している．折柴は10年も前から小説も書くようになっており，すでに**志賀直哉**を終生の師と仰ぐまでになっていた．＊装幀は版元店主の五十澤（いそざわ）二郎であったが，「中途三度装幀の意匠を更へた」（p. 160）結果，和本に似せながら綴じ紐を編み上げ靴のように背中で交叉させる斬新な意匠が驚かしてくれる．初版300部．

□　『無限抱擁』（改造社，昭和2年9月20日：1927）昭和　〈函〉

＊解説者：浅見淵（ふかし）．＊**碧梧桐**が推し進めていた「個性尊重と因襲打破をモットーとする」新傾向の俳句に励んだのち，瀧井は大正10年（1921）から小説の執筆に向かうようになった．なにしろ，「書きたいところから書いて行くという飽くまで感興を重んじている飛び石伝いの執筆態度」であったから，本書は「各

章が独立した短編」であるかのように構成されている青春長篇小説集であった.『日本近代文学図録』(1964) は,「直接経験したことを, 正直に一分一厘もゆがめず, こしらえずに描いた恋愛小説」(p. 296) と紹介する. ＊参考：晩年の 1973 年 10 月 15 日になって,「文学にひかれる思春期の少年」を活写した自伝『俳人仲間』(新潮社) も発表している.

**武井 武雄** (1894－1983)：

□ 『おもちや箱』(丸善, 昭和２年６月１日：1927) 児② 児選

＊解説者：上笙(かみ)一郎. ＊この〝武井武雄畫噺〟, 第２巻は, 日本におけるナンセンス児童文学の稀有な実例であるとともに, 武井流の痛烈な諷刺よりも「人間肯定的・現世肯定的な価値観」がより優った作品に仕上がっている. ＊更には, 念入りな造本とソエガキの入ったイラストによって,「美術的な面からも高く評価されている」(内容見本). ＊ 1998 年 12 月 10 日に銀貨社が現代仮名遣いに改めた復刻版 (1,600 円＋税) を出しているが, 表紙の金箔押しや空押しまでは再現されていない.

**竹久 夢二** (1884－1934)：本名茂次郎. 第一期, 第二期の別を 夢二 の右肩に表示する.

□ 『青い小径』㊵ (尚文堂書店, 大正 10 年７月 25 日：1921) 夢二[2] 〈函・ジ〉

＊雑誌に発表されてきた短詩 54 篇と草画 20 枚を収録. 夢二の「あいさつ」は,「悩ましい春の日が過ぎ, 黄金の木が月の木の間がくれに忍びよる青い通ひ路に, とりおとした夢のかずゝゞがこの小曲です.」と告げている. ＊ジャケットとして背文字を印刷したパラフィン紙が表紙を蔽っている. ＊〝詩画集シリーズ〟(ノーベル書房, 1975) は, 現代の浪漫文庫版の装幀で, 中身において 1925 年の増補版を再現させている.

□ 『青い船』㉝ (實業之日本社, 大正７年７月 10 日：1918) 夢二[2] 〈ジ〉

＊読み聞かせ絵本の体裁を採りながら, 長田幹雄の『夢二本』(1974) の勘定では,「物語十六篇, 詩二十一篇, 色刷十二頁, 共刷三頁, 組込図版二十二図」と, 多様な内容が提供されている.

□ 『あやとりかけとり』㊶（春陽堂，大正 11 年 12 月 30 日：1922）

児①/夢二[1]/児選　〈函〉

＊解説者：浅見淵（ふかし）/ 無 / 浅見．＊**北原白秋，西條八十**などによる新童謡とは趣きを異にして，夢二は各地を旅しながら採取した「ずいゞゝずつころばしや」とか「かごめかごめ」のような当時まだ唄われていた江戸時代以来の伝承わらべ唄を 197 篇集め，加筆し，挿画を添えて自装している．＊ノーベル書房の〝詩画集シリーズ〟（1975）は，新字体漢字で原本の本文を再現させているが挿画は単色で，装幀も現代版用のものに揃えられている．

□ 『歌時計』㊲（春陽堂，大正 8 年 7 月 13 日：1919）夢二[1]　〈函〉

＊男手一つで育ててきた不二彦が 8 歳になった日に，夢二が編んで 104 篇を収めた童詩集．＊口絵は色刷り．本文にも墨刷りのほのぼのとした木版画が 16 葉綴じ込まれている．

□ 『繪入歌集』㉖（植竹書院，大正 4 年 9 月 3 日：1915）夢二[1]　〈函〉

＊解説者：長田幹雄．＊「記憶にある歌ですきなのだけ百首撰」（序）んで，対向頁に多様な手法による絵を配す．『解題』で長田は歌の出典を 93 首まで解明している．＊本書は版元を変更して 1916 年に『**暮笛**』として増補改版された．

□ 『繪ものがたり 京人形』⑩（洛陽堂，明治 44 年 3 月 26 日：1911）夢二[2]

＊解説者：長田幹雄．＊短詩 17 篇のなかに 26 点の刷り絵が配されて，「この一巻を世のうら若き母君達におくる」との献辞が夢二により添えられている．＊初版は 1,500 部刷られた．

□ 『繪物語 小供の国』⑧（洛陽堂，明治 43 年 12 月 10 日：1910）夢二[2]

＊解説者：長田幹雄．＊夢二にとっては最初の児童向け単行本で，短詩と赤色刷りの絵 51 組が対向に配置されている．＊初版では 1,000 部が発行された．

□ 『草の實』㉔（實業之日本社，大正 4 年 1 月 20 日：1915）夢二[2]　〈ジ〉

＊解説者：長田幹雄．＊夢二は，かつて愛読した『**こがね丸**』の作者**巖谷小波**（いわや）に，「この稚い物語」を 33 篇を献じている．＊ノーベル書房の〝詩画集シリーズ〟『草の実』（1976）は新字体で活字が組み直されたが，挿画や本文は初版本から転載されている．

□ 『コドモノスケッチ帖 活動寫眞にて』⑭

（洛陽堂，明治 44 年 12 月 20 日：1911）夢二[2]

＊解説者：長田幹雄．＊「弁士夢二の…名調子と，カメラマン夢二の作る名画面と，ないまぜになって，抒情絵巻を構成している」と，『解題』は喩えている．

□ 『コドモノスケッチ帖 動物園にて』⑮

（洛陽堂，明治 45 年 2 月 24 日：1912）夢二[2]

＊解説者：長田幹雄．＊「二十五種の動物にそれぞれ対向頁に，詩や文や子供の対話を添えた愛らしい本」と，『夢二本』は紹介する

□ 『櫻さく國 紅桃の巻』⑰（洛陽堂，明治 45 年 3 月 21 日：1912）夢二[2]〈挿〉

＊解説者：長田幹雄．＊夢二が主宰した絵雑誌の第 2 集で，恩地孝四郎ほかの同人から寄稿を得ている．夢二も三味線草の筆名で扉絵，詩，挿み込みの多色刷り木版画「得度の日」等を執筆している．

□ 『櫻さく國 白風の巻』⑫（洛陽堂，明治 44 年 10 月 1 日：1911）夢二[2]〈挿〉

＊解説者：長田幹雄．＊夢二主宰の絵雑誌で，同志，先輩，同人から寄稿を得ていた．自身も，夢路～三味線草～犬吠岬～江戸川朝歌と筆名を変えながらページを埋めていた．なかでも「草畫の事」と，挿み込まれた多色刷り木版画「あきつ」とが目を惹く．

□ 『櫻さく嶋 春のかはたれ』⑯

（洛陽堂，明治 45 年 2 月 24 日：1912）夢二[1]　〈和〉

＊解説者：長田幹雄．＊江戸の情緒を小唄と浮世絵で捉えた画集で，『解題』によると，**永井荷風**が廣重や北齊を越える描写になっていると夢二への期待を表明したらしい．＊題簽には「櫻さく嶋…」，扉には「春のかはたれ」とある．

□ 『櫻さく島 見知らぬ吉界』⑱

（洛陽堂，明治 45 年 4 月 24 日：1912）夢二[1]　〈和〉

＊解説者：長田幹雄．＊『**櫻さく嶋 春のかはたれ**』の姉妹作で，「夢二の幼年期の，愛情のめざめを，美しく物語る」文章を収める．＊扉には「見知らぬ吉界」としかない．口絵としてループ状 8 頁の片面に多色で刷られている．

□ 『三味線草』㉗（新潮社，大正 4 年 9 月 10 日：1915）夢二[1]　〈函〉

＊解説者：長田幹雄．＊神楽歌に始まり様々な時代に唄い継がれてきた小唄を

168 篇集めて，夢二が改作を施している．長田がそれらの出典を『解題』で詳解．＊多色刷りやコロタイプ印刷のページなど絵画も多く配されて，「櫻さく三味線の國」（序）らしさを描き出している．「優美艶麗」な装幀で人気を集めて 19 版を数えた．＊ノーベル書房の〝詩画集シリーズ〟（1976）では，新字体漢字で組み直され，絵画頁が減らされている．

□ 『さよなら』[7]（洛陽堂，明治 43 年 11 月 28 日：1910）夢二[2]　〈ジ・ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊本書は物語詩を主要部分にして，分散して挿絵が配されている．夢二が作品に Mother Goose（英国の伝承童謡）を取り入れた初期の事例らしい．＊初版 1,000 部．＊複製本においても，文字が印刷されたパラフィン紙がジャケットを更に蔽っている．

□ 『縮刷夢二画集』[23]（洛陽堂，大正 3 年 10 月 21 日：1914）夢二[2]　〈函〉
＊解説者：長田幹雄．＊既刊の画集『**夢二畫集 春**』，『**夏**』，『**秋**』，『**冬**』の 4 冊から約半数の絵を選び，半分の判型で合本にしたもの．夢二は縮刷サイズに彫り直された版画の出来栄えにひどく不満で，校正を怠った我が身の無責任を悔いた．本書は洛陽堂が手放してからあと，第四版（1916）以降はゾッキ本屋の間で使い回されていった．

□ 『抒情カット圖案集』[57]（寶文館，昭和 5 年 9 月 1 日：1930）夢二[2]　〈函〉
＊『夢二本』によると，版畫美術研究會の 8 名によるカット作品から編輯された図案集であることを，当時の広告が謳っているらしい．全 116 頁のうち過半の 70 頁を夢二の作品が占める．

□ 『小夜曲』[28]（新潮社，大正 4 年 12 月 20 日：1915）夢二[1]
＊解説者：長田幹雄．＊角書に「繪入詩集」とあるが，恩地孝四郎による背面女性座像「迎日」，およびそれに続くコロタイプ印刷の 15 葉のみが〝繪〟の部で，「小夜曲（せれなあど）」と仮名が振られた中扉以降は「八章二百三十四首全部三十一文字の歌だけ」とされた部になる．＊恩地による装幀は，鮮やかな紫のビロード表紙に三方金という豪華さ．＊浪漫文庫版〝詩画集シリーズ〟（ノーベル書房，1975）は，装幀を除いて初版本をほぼ再現させている．

□ 『草画（そうが）』[22]（岡村書店，大正 3 年 4 月 10 日：1914）夢二[1]　〈ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊『**夢二繪手本**』の後編を意図して作画したところ，「人

間の生活狀態に多く興味」を覚えさせる画集になったので書名を『草画』に改めた，と序文にある．『解題』は本書を『**晝夜帶**』所収の「晝集 太陽の恵み」の延長線上に置いて，「夢二画集の，双璧」を為すものと評している．

□ 『たそやあんど』[39]（玄文堂，大正 8 年 10 月 31 日：1919）夢二[1]

＊表紙および 10 葉ある全頁大の絵はすべて色刷り木版画．角書には「民謡」とある．中扉「古代錦繪張交ぜ帖」の後に江戸小唄や上方地唄が 88 篇続いて，次の中扉「新板浮世ぶし」に続けて自作の詩 7 篇を配し，「なげぶし」とある第三の中扉以降は題名の無い短詩が 75 節投げ込まれた構成になっている．

□ 『晝夜帶』[20]（洛陽堂，大正 2 年 12 月 1 日：1913）夢二[1]　〈函〉

＊解説者：長田幹雄．＊題扉に続いて，中扉には「晝集 太陽の恵み」とあり，新作 78 点の木版画あるいは凸版画が本書の前半を占める．後半は和歌 82 首と短詩 34 篇を集めて文字ばかり．前半部は後に『**夢二の繪うた**』に転用された．

□ 『童謡集 凧』[52]（研究社，大正 15 年 12 月 15 日：1926）夢二[1]　〈函〉

＊『**童話集 春**』と対をなす童謡 111 篇集として両書とも同日に発行された．函には「童謡の本 凧」と印刷されている．

□ 『童話集 春』[51]（研究社，大正 15 年 12 月 15 日：1926）児②/夢二[1]〈函〉

＊解説者：長田幹雄 / 無．＊収められた 19 篇の童話は，小学生の息子が切っ掛けになって**島村抱月**の『**少年文庫**』（1906）や，『小學少年』および『小學少女』（1915）などに発表してきたもの．但し，「夢二は，本にする時に初出に手を加える」ことが甚だしかった．＊結局本書を最後にして，彼は大人向けメディアに作品を発表するようになった．＊ノーベル書房の〝詩画集シリーズ〟の『春・夢二童話集』（1976）は，装幀を除いて原本に準じている．いっぽう〝わくわく！名作童話館〟（日本図書センター，2006）での復刻は文字遣いや装幀が現代化されている．

□ 『都會スケツチ』[11]（洛陽堂，明治 44 年 6 月 26 日：1911）夢二[1]　〈ジ〉

＊解説者：長田幹雄．＊本書は，「数え年二十八の夢二を取りまく，やっと二十になったばかりの若いえかきたちの仕事」で，「下町式都人生活」を描いた 96 図ちゅう，夢二作（○に竹のサイン）が 21 点，恩地孝四郎作が 21 点で，残る 54 点がその他 3 名による仕事であった．＊初版 1,000 部発行．

□ 『どんたく』[19]（實業之日本社，大正２年 11 月５日：1913）

大正 連翹 夢二[1]　〈ジ〉

＊解説者：長田幹雄．＊有名な「宵待草」を含む，「少年の日のいとしき小唄」59 篇に 17 葉の挿画を配した第一詩集であった．また，夢二の代表的著作でもあった．それまでの洛陽堂でなく，収録作品の多くを掲載してきた雑誌『日本少年』の版元から，恩地孝四郎の装幀で刊行された．＊ジャケットの裏面は挿画購入の抽選申込み葉書なっている．売れ行きは好調で第 30 版（1922 年５月 18 日）には達していたらしい．＊ノーベル書房の〝詩画集シリーズ〟（1976）は，新字体漢字で組み直されながらも挿画や本文頁は原本に準じている．＊日本図書センターが 2002 年に〝愛蔵版詩集シリーズ〟で本作品の「初刊のデザインの香り」を新字体で再現しようとした．

□ 『どんたく繪本１』[46]（金子書店，大正 12 年 12 月 21 日：1923）夢二[2]

＊裏表紙に「どんたく社編　金子書店版」とあり，10 年前の『**どんたく**』とは全く趣きを異にしている．木版二～三色刷りの絵本で，読むところは無い．

□ 『どんたく繪本２』[47]（金子書店，大正 12 年 12 月 23 日：1923）夢二[2]

＊木版二～三色刷りの子供用絵本で，読むところは無い．

□ 『どんたく繪本３　動物園』[48]（文興院，大正 13 年３月 20 日：1924）夢二[2]

＊『**どんたく繪本**』を出してきた金子書店が興した新社から刊行された．『夢二本』によると，判型の拡大には写真製版が導入されたらしい．

□ 『ねむの木』[29]（實業之日本社，大正５年３月５日：1916）夢二[1]

＊モダンな表紙絵，ローマ字入りで二～四色に刷られた口絵４葉と挿絵 10 葉が新奇さで目を惹く．長田は「伝承童謡を夢二のリライトしたもの百九篇」と勘定している．

□ 『春のおくりもの』[56]（春陽堂，昭和３年１月１日：1928）夢二[1]　〈函〉

＊同日発行の『**露臺薄暮**』の姉妹篇とされ，「あなた達へおくるこれが最後の贈物です．」と序文にある通り，夢二の生前最後の単行本となった．収録された詩文 84 篇ちゅう題名が『露臺薄暮』所載のものと一致するのは 16 篇だけなので，『**夜の露臺**』（1916；1919）を含むグループの一端ととして本書は意図されていたのであろう．＊ノーベル書房の〝詩画集シリーズ〟（1976）では，新

字体漢字で組み直されたが挿画や本文は初版本に準じている．

□ 『春の鳥』㉜（雲泉堂，大正６年４月15日：1917）夢二[1]

＊『夢二本』の解説では，本書は「繪入小唄集」で，「昔の小唄を夢二がリライトしたもの」247篇に，多色刷り木版画５葉と単色８葉の美人画を配して，一冊としたもの．

□ 『暮笛（ぼてき）』㉛（三陽堂書店，大正５年12月13日：1916）夢二[2]　〈函〉

＊版元を植竹書院から替えて，『**繪入歌集**』に増補して改版としたもの．100首という収録総数が同前であっても作品には出入りがあるし，何よりも今回は装幀が大いに凝っている．

□ 『山へよする』㉞（新潮社，大正８年２月10日：1919）夢二[1]　〈ジ〉

＊大正３～７年の「戀の記述である．また彼等の愛の祈りである．…挿繪はある讀者のために畫き添えたもの」（後記）とは，引き裂かれて終わった笠井彦乃との仲を指すらしい．251首の恋歌集．＊浪漫文庫版〝詩画集シリーズ〟（ノーベル書房，1975）では原本と装幀が異なり，絵画は単色化して配置を替えられ，若干の作品が削除されている．

□ 『夢二繪手本』㉑（岡村書店，大正３年１月７日：1914）夢二[2]　〈ジ〉

＊解説者：長田幹雄．＊本書を手に取る幼い読者たちに目で感じさせ，自分たちの感覚を信じさせ，独自の表現を試みさせるよう，自序で保護者に勧めている．読者に思い思いの色彩で塗らせるよう並べた多様なカットのなかに，夢二による配色例が４箇所に綴じ込まれている．＊10年後に『**夢二畫手本**』として再編集される．

□ 『夢二畫集 秋の巻』⑤（洛陽堂，明治43年10月23日：1910）夢二[1]〈ジ〉

＊解説者：長田幹雄．＊『夢二本』によると，３頁の序文以外はすべて木版刷りで，「旧発表の画の再蒐であるが，雑誌使用の版木そのままでなく，新に起版している」そうである．＊初版は3,000部発行であった．

□ 『夢二画集 旅の巻』④（洛陽堂，明治43年７月22日：1910）夢二[1]〈ジ〉

＊解説者:長田幹雄．＊富士登山と京都から金沢への旅行の途上で描いたスケッチを収めた２篇の紀行文集で，新作の版画や絵を頁配分に工夫しながら披露している．但し写真については，粗悪な網目印刷が祟って画像が潰れてしまい判

別し難い．＊初版 1,000 部発行であったが，重版に伴なう累計部数も 4,000 までは判明している由．＊夢二では，原本の初版では抜けていた「壁をたづねて」（京都～金沢）の中扉が再版本から補填されている．

□ 『夢二畫集 都會の巻』⑬（洛陽堂，明治 44 年 11 月 21 日：1911）夢二[1]〈ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊未発表のスケッチから纏められていたが，「都会の情調を描き生命を暗示せんとする作者の欲求は…到るところに発見出来るであらう」と，当時評されたらしい．書名に『夢二畫集』が冠された最後の巻になる．

□ 『夢二画集 夏の巻』②（洛陽堂，明治 43 年 4 月 19 日：1910）夢二[1]〈ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊雑誌掲載済み挿画の版木に新たに起こした木版も加えて青色に刷った再刻画集で，119 首の短歌は赤字に印刷されている．＊初版は 1,000 部発行されたが，版を重ねて 7,000 部くらい印刷されたろうと見積もられている．奥付頁の後に前作に対する反響が掲載されている．

□ 『夢二畫集 野に山に』⑨（洛陽堂，明治 44 年 2 月 25 日：1911）夢二[2]〈ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊明治 40 ～ 44 年頃に夢二が興の赴くままに描いてきた新作 24 葉を集めて第八画集である「野に山に」とした．本書後半の「行人の歌」は，明治 43 年 8 月に銚子に滞在した際の産物で，詩や短文と刷り絵を収める．＊初版は 2,000 部発行．

□ 『夢二畫集 花の巻』③（洛陽堂，明治 43 年 5 月 20 日：1910）夢二[1]〈ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊新作画集で，セピア色版画 40 点と色刷り木版画 5 点に，短歌 81 首と短詩 8 篇を集める．＊第五版までに 4,500 部印刷．

□ 『夢二畫集 春の巻』①（洛陽堂，明治 42 年 12 月 15 日：1909）夢二[1]〈ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊明治 42 年になって，夢二の挿画を掲載してきたおよそ 7 誌から版木を下げ渡してもらい，そのうち 179 点を配し，文章を書き添えて，開業早々の洛陽堂から処女出版を果たした．木版画は茶色刷りで鮮明であるが，緑色の本文は印刷がかすれて読み難い．＊それでも，版を改めながら 9,000 部が売れたようである．

□ 『夢二畫集 冬の巻』⑥（洛陽堂，明治 43 年 11 月 22 日：1910）夢二[1]〈ジ〉
＊解説者：長田幹雄．＊序文と既発表の木版画から一冊にまとめられた．冬らしさが伝わる鈍（にび）色にほぼ統一された印刷．＊初版発行部数は 4,000 であった．

□ 『夢二畫手本 クレィヨン練習帖①』[42]

（岡村書店，大正 12 年 1 月 15 日：1923）夢二[2]

＊10 年前の『**夢二繪手本**』を四分冊に編集した再編物．①は生物画集に相当しようが，文章は無い．

□ 『夢二畫手本 クレィヨン練習帖②』[43]

（岡村書店，大正 12 年 1 月 15 日：1923）夢二[2]

＊『夢二畫手本…①』と併売された，日用品と植物の画集であるが，文章は無い．

□ 『夢二畫手本 クレィヨン練習帖③』[44]

（岡村書店，大正 12 年 1 月 15 日：1923）夢二[2]

＊『夢二畫手本…①』と併売された，日用品と植物の画集であるが，文章は無い．

□ 『夢二畫手本 クレィヨン練習帖④』[45]

（岡村書店，大正 12 年 1 月 15 日：1923）夢二[2]

＊『夢二畫手本…①』と併売された，建造物と風景の画集であるが，文章は無い．

□ 『夢二抒情画選集 上巻』[53]（寶文館，昭和 2 年 1 月 15 日：1927）夢二[2]〈函〉

＊『夢二本』の解説では，雑誌『令女界』や『若草』の編集人藤村耕一と画家岩田準一が協力し合った編集本で，単行本に再掲されたことのない抒情画を雑誌切抜から選び，初出の判明した分は年代順で前半部に配し，後半部には再掲物も含めながら，画文集にまとめたもの．夢二による承認を獲て，恩地孝四郎による煌びやかな装幀も得ての出版であった．

□ 『夢二抒情画選集 下巻』[54]

（寶文館，昭和 2 年 5 月 15 日：1927）夢二[2]　〈和・函〉

＊本書『上巻』の巻末広告に，「これは横本になるやうな繪だけ集めてございます．この二冊で，竹久夢二畫伯の過去の傑作は大体を窺ふことが出來るのであります．」とあるように，原画の縦・横の判型に合わせて『夢二抒情画選集』は上下巻に分けられていた．

□ 『夢二の繪うた』[25]（赤城書院，大正 4 年 8 月 5 日：1915）夢二[2]　〈函〉

＊解説者：長田幹雄．＊『**晝夜帶**』前半の単色画頁を切り離したもの．奥付に夢二の名はない．長田は，「夢二の与り知らない本のような気がする」とか「洛陽堂で，残ってしまった本を引き取って絵だけ外したのではあるまいか」と推

測して，本書の存在を「夢二本から抹消したい」との心情を『解題』で洩らしている．

□ 『夢のふる郷』㊳（新潮社，大正８年８月10日：1919）夢二[1]

＊多色刷り10葉と単色１葉の木版画が口絵になっていて，短詩139篇のなかにも単色画が４葉綴じ込まれている．＊夢二本にしては珍しく背革でガッシリした装幀に仕上げられている．＊ノーベル書房の〝詩画集シリーズ〟(1975）では，装幀が現代化されて，口絵が３枚減らされ，新字体漢字で組み直されている他は，原本をほぼ再現させている．

□ 『夜の露臺』㉚（千章館，大正５年８月22日：1916）夢二[1]　〈函〉

＊少女向け29篇の詩集で,『**三味線草**』で好評だった装幀様式を再び用いている．＊大正８年（1919）に増補再版され，昭和２年（1927）には『**露臺薄暮**』として刷新された．

□ 『夜の露臺』㊱（春陽堂，大正８年３月21日：1919）夢二[2]　〈函〉

＊1916年版『**夜の露臺**』の版元を替えての再版ながら，口絵を変更しつつ，12～16歳の少女のために雑誌に執筆された作品を集めた書である旨の序文を添えて,「接吻」以降の17篇を追加して掲載する．＊浪漫文庫版〝詩画集シリーズ〟（ノーベル書房，1975）は，装幀と意匠を若干異にするが，２篇を削除したうえで原本を再現させている．

□ 『戀愛秘語』㊾（文興院，大正13年９月20日：1924）夢二[2]　〈ジ〉

＊中扉に「戀愛は「女性崇拜」に始り,「女性崇拜」に終る.」とある．収録された短篇５本，砂がき（警句）75，抒情詩16，相聞自讃12点に，41頁分の挿絵が綴じ込まれている．＊奥付に三版とあるのは，売れ行き好調を印象付けるための細工と考えられている．＊〝詩画集シリーズ〟ちゅうの『夢二慕情』(ノーベル書房, 1976）は, 装幀と口絵が異なり, 新字体漢字で組み直されている他は, 収録作品と挿絵は原本通り.

□ 『露臺薄暮』㊺（春陽堂，昭和３年１月１日：1928）夢二[1]　〈函〉

＊序文によると,『**夜の露臺**』(1916；1919）に「比較的最近の詩と散文とを添へて，改版したもの」であり，更に20年前の作品も含まれているそうである．しかし収録64篇ちゅう題名で『夜の露臺』所載のものに一致するのは３篇し

か見られないので，『夜の露臺』の続篇として意図されていたかもしれない．

□ 『露地の細道』[35]（春陽堂，大正 8 年 3 月 20 日：1919）夢二[1] 〈函〉

＊角書に「繪入情歌」とあるように，夢二がリライトした小唄 131 篇と，花柳界の情趣を伝える多色刷り木版画 11 葉を集める．版元は 1926 年にも『**露地のほそみち**』を出しているが，内容は刷新されている．＊〝詩画集シリーズ〟ちゅうの浪漫文庫版『露地のほそみち』（ノーベル書房，1976）は，新字体漢字で 1919 年版の本文を再現させるが，挿画は単色になって，装幀も異なっている．

□ 『露地のほそみち』[50]（春陽堂，大正 15 年 11 月 24 日：1926）夢二[2] 〈函〉

＊大正 8 年（1919）の『**露地の細道**』より小唄を「いかさか抜差して」，新鮮な感覚の多色刷り木版画が新たに 11 枚用意されて，「江戸末期の健康でない蒼白いデカダンな空氣のなかから一味純新なものを拾ひ出したい希望で編輯」（序）された新版になっている．

（人文学部の要請により，以下の掲載は次号以降の予定）